

慶び

ボンボニエールの意匠美

小箱



慶 びの小箱

ボンボニエールの意匠美



平成十二年四月二十九日(土)～七月三十日(日)
宮内庁三の丸尚蔵館

目次

あいさつ

図版

明治二十七年—宮中ポンボニエール事始

皇室御慶事の引出物としてのポンボニエール—その伝統性と多彩さ

出品目録

59 ボンボニエールの制作とその周辺—明治から昭和前期にかけて

Collections

Foreword

ii

i

凡例

一、本図録は平成十二年四月二十九日(土)から七月三十日(日)までを会期とする展覧会「慶びの小箱—ポンボニエールの意匠と美」の解説図録である。

一、図版掲載作品のうち、作品番号が付されているものは、展示番号と一致する。

一、展示作品および十九頁掲載の参考図版作品は、当庁用度課および三の丸尚蔵館の所管品である。図録中に掲載した作品のサイズの単位はcmである。

一、刻印の表記のうち「*」はそれぞれ、会社等のマークを示す。詳細は四十六—五十一頁掲載の図版解説中の表を参照。

一、五十二頁の図版は『大禮記録』(大禮記録編纂委員会編纂、内閣書記官室記録課、大正八年三月)、『昭和大禮要録』(内閣大禮記録編纂委員會、昭和六年七月)より引用。

一、作品の制作年代、来歴等は明確に特定できた場合のみ記載した。制作年代が記載されていないものについては、おおよそ明治後期以降、昭和前期までのものと考えられる。
一、本展覧会の企画および図録の編集は、三の丸尚蔵館学芸室研究員・太田彩、五味聖が担当し、解説は同主任研究官大熊敏之、太田、五味が執筆した。
一、本図録掲載の写真は、宮内庁嘱託のカメラマンの撮影による。

あいさつ

ボンボニエールとは、フランス語でボンボン（砂糖菓子）を入れる小箱のことです。ヨーロッパでは、子供の誕生祝い、結婚式などで幸福を彩るものとして砂糖菓子が祝いの場に添えられることがあります。日本の皇室でも近代以降、この習慣を取り入れ、お菓子を入れた小さな箱を御慶事などの引き出物として用いるようになりました。

こうしたボンボニエールが皇室でいつ頃から用いられはじめたかは、必ずしも明らかではありませんが、少なくとも明治二十七年の明治天皇大婚二十五年の饗宴の際には用いられており、以後、天皇の即位、立太子、あるいはお子様方の誕生、着袴、成年式、結婚式などの御慶事の際に記念の品として、その都度、意匠を凝らしたものが制作されました。それらは銀製のものを中心として、中には七宝を併用したもの、木製漆塗、陶器、竹製のものもあります。

今回の展覧会では、特に意匠や制作技術が多彩な昭和前期までのものを中心として、可愛らしさと美しさを兼ねそなえたボンボニエールを約百五十点紹介します。現在に至るまでなお皇室の御慶事に添えられる、これらボンボニエールの展示を通じて、皇室独自の工芸美に触れていただければ幸いです。

平成十二年四月

宮内庁三の丸尚蔵館

宮内庁三の丸尚蔵館所蔵 出品作品一覧 (第21回 慶びの小箱一ポンボニエールの意匠美)

作品番号	作品名	作者名	員数	時代	ページ
1-1	楕円形鶴亀文ポンボニエール		一個	明治27年 (1894)	p. 6
1-2	丸形鶴亀文ポンボニエール		一個	明治27年 (1894)	p. 6
2-1	入目籠形ポンボニエール		一個	大正4年 (1915)	p. 7
2-2	柏葉笠形ポンボニエール		一個	大正4年 (1915)	p. 7
2-3	八稜鏡形鳳凰文ポンボニエール		一個	大正4年 (1915)	p. 7
3-1	双鶴置物形ポンボニエール		一個	大正14年 (1925)	p. 8
3-2	菊花形鳳凰文ポンボニエール		一個	大正14年 (1925)	p. 8
4	六花形鷦鷯文ポンボニエール		一個	大正5年 (1916)	p. 9
5-1	八稜鏡形鶴文ポンボニエール		一個	大正8年 (1919)	p. 9
5-2	丸形松喰鶴文ポンボニエール		一個	大正8年 (1919)	p. 9
6-1	箱形波文ポンボニエール		一個	大正10年 (1921)	p. 10
6-2	箱形波文ポンボニエール		一個	大正10年 (1921)	p. 10
7-1	六角松鶴文ポンボニエール		一個	大正13年 (1924)	p. 10
7-2	卵形亀甲文ポンボニエール		一個	大正13年 (1924)	p. 10
8-1	雅楽大太鼓形ポンボニエール		一個	昭和3年 (1928)	p. 11
8-2	釣燈籠形ポンボニエール		一個	昭和3年 (1928)	p. 11
8-3	威儀桿形ポンボニエール		一個	昭和3年 (1928)	p. 11
9-1	重ね箱形松鶴文ポンボニエール		一個	昭和24年 (1949)	p. 12
9-2	短冊形朝顔松枝文ポンボニエール		一個	昭和24年 (1949)	p. 12
10	丸形竹梅文ポンボニエール		一個	昭和49年 (1974)	p. 12
11-1	丸形竹文ポンボニエール		一個	昭和46年 (1971)	p. 12
11-2	丸形桃枝文ポンボニエール		一個	昭和48年 (1973)	p. 12
11-3	丸形竹に鳩文ポンボニエール		一個	昭和56年 (1981)	p. 12
11-4	丸形桃文ポンボニエール		一個	昭和58年 (1983)	p. 12
12-1	丸形西欧地図入りポンボニエール		一個	昭和46年 (1971)	p. 13
12-2	丸形北米地図入りポンボニエール		一個	昭和50年 (1975)	p. 13
13-1	御紋丸形ポンボニエール		一個	昭和51年 (1976)	p. 13
13-2	御紋丸形ポンボニエール		一個	昭和51年 (1976)	p. 13
13-3	丸形菊枝文ポンボニエール		一個	昭和61年 (1986)	p. 13
14	犬張子形ポンボニエール		一個	昭和8年 (1933)	p. 14

15-1	丸形鶯鷦文ポンボニエール		一個	昭和27年（1952）	p. 14
15-2	丸形鶯鷦文ポンボニエール		一個	昭和27年（1952）	p. 14
16-1	丸形鶯鷦文ポンボニエール		一個	昭和34年（1959）	p. 15
16-2	菊花形双鶴付ポンボニエール		一個	昭和34年（1959）	p. 15
17	丸形榮印桜文ポンボニエール		一個	昭和59年（1984）	p. 15
18-1	丸形鳳凰文ポンボニエール		一個	平成2年（1990）	p. 16
18-2	丸形花枝文ポンボニエール		一個	平成2年（1990）	p. 16
19	丸形菊葉文ポンボニエール		一個	平成11年（1999）	p. 16
20-1	碁盤形ポンボニエール		一個	昭和39年（1964）	p. 16
20-2	扇形梅文ポンボニエール		一個	昭和45年（1970）	p. 16
20-3	花形羊草文ポンボニエール		一個	昭和48年（1973）	p. 16
21	丸形鶯鷦文ポンボニエール		一個	平成3年（1991）	p. 17
22-1	丸形松鶴文ポンボニエール		一個	平成5年（1993）	p. 17
22-2	丸形鶯鷦文ポンボニエール		一個	平成5年（1993）	p. 18
23	丸形梅檜扇菖蒲文ポンボニエール		一個	平成2年（1990）	p. 18
24-1	箱形雲鶴文ポンボニエール		一個	大正11年（1922）	p. 20
24-2	箱形松唐草文ポンボニエール		一個	大正11年（1922）	p. 20
24-3	箱形松唐草文ポンボニエール		一個	大正11年（1922）	p. 20
25	丸形鳳凰文ポンボニエール		一個		p. 20
26	鼓形若松星文ポンボニエール		一個	昭和3年（1928）	p. 21
27-1	箱形梅花散文ポンボニエール		一個	大正14年（1925）	p. 22
27-2	丸形梅花散文ポンボニエール		一個	大正14年（1925）	p. 22
28	洲浜形松波文ポンボニエール		一個	昭和5年（1930）	p. 22
29	入隅箱形鳥居杉木立文ポンボニエール		一個	昭和10年（1935）	p. 22
30-1	八花形桐文ポンボニエール		一個	昭和16年（1941）	p. 22
30-2	扇形三笠山に若杉桐図ポンボニエール		一個	昭和16年（1941）	p. 22
31	帙入和書形ポンボニエール		一個	大正14年（1925）	p. 23
32	梅花形ポンボニエール		一個	昭和4年（1929）	p. 23
33	卷物形ポンボニエール		一個	昭和4年（1929）	p. 23
34	丸形菊花文ポンボニエール		一個	昭和9年（1934）	p. 23
35	箱形弓に巻物文ポンボニエール		一個	昭和6年（1931）	p. 24
36	でんでん太鼓形ポンボニエール		一個	昭和10年（1935）	p. 24

37	柳箱形ポンボニエール		一個	明治41年（1908）	p. 25
38	炭箱形ポンボニエール		一個		p. 25
39	六角火爐形ポンボニエール		一個		p. 25
40	重扇形松竹梅文ポンボニエール		一個		p. 26
41	檜扇形ポンボニエール		一個		p. 26
42	檜扇形藤桜文ポンボニエール		一個		p. 26
43	重扇形松竹梅文ポンボニエール		一個		p. 26
44	舞楽兜形ポンボニエール		一個		p. 27
45	舞楽兜形ポンボニエール		一個	大正15年（1926）	p. 27
46	鶴首船形ポンボニエール		一個		p. 27
47	御所車形ポンボニエール		一個		p. 27
48	蹴鞠形ポンボニエール		一個		p. 28
49	双六盤形ポンボニエール		一個		p. 28
50	碁盤形ポンボニエール		一個	大正8年（1919）	p. 28
51	八稜鏡形梅文ポンボニエール		一個		p. 28
52	八稜鏡形ポンボニエール		一個		p. 28
53	柄鏡箱形すみれ文ポンボニエール		一個		p. 28
54	帙入和書形ポンボニエール		一個		p. 29
55	飾棚形ポンボニエール		一個		p. 29
56	文台硯箱形ポンボニエール		一個		p. 29
57	香炉形ポンボニエール		一個		p. 30
58	香炉形ポンボニエール		一個	大正13年（1924）	p. 30
59	桶形ポンボニエール		一個		p. 30
60	糸目丸櫃形ポンボニエール		一個		p. 30
61	丸櫃形松鶴文ポンボニエール		一個		p. 30
62	菊鉢植形ポンボニエール		一個		p. 31
63	竹筒形ポンボニエール		一個		p. 31
64	竹形ポンボニエール		一個	昭和9年（1934）	p. 32
65	竹形ポンボニエール		一個		p. 32
66	桃形ポンボニエール		一個	大正14年（1925）	p. 32
67	桃形ポンボニエール		一個		p. 32
68	瓢形ポンボニエール		一個		p. 32

69	うさぎ置物形ポンボニエール		一個	大正12~13年頃（1923~24頃）	p. 33
70	親子亀置物ポンボニエール		一個		p. 33
71	鷹置物形ポンボニエール		一個		p. 34
72	諫鼓形ポンボニエール		一個		p. 34
73	鳥籠形ポンボニエール		一個	大正10年（1921）	p. 35
74	籠に鶏形ポンボニエール		一個	大正13年（1924）	p. 35
75	鳥籠形ポンボニエール		一個	大正13年（1924）	p. 36
76	鳥籠形ポンボニエール		一個	大正15年（1926）	p. 36
77	鳥籠形ポンボニエール		一個	大正14年（1925）	p. 36
78	冴形ポンボニエール		一個	大正15年（1926）	p. 37
79	折紙兜形ポンボニエール		一個		p. 37
80	鍔形ポンボニエール		一個		p. 37
81	印籠形ポンボニエール		一個	大正11年（1922）	p. 37
82	駕籠形ポンボニエール		一個		p. 38
83	提灯形ポンボニエール		一個	昭和11年（1936）	p. 38
84	能太鼓形ポンボニエール		一個		p. 38
85	太鼓形ポンボニエール		一個		p. 38
86	軍配形菊桐文ポンボニエール		一個		p. 39
87	団扇形萩流水文ポンボニエール		一個		p. 39
88	和船形ポンボニエール		一個	昭和4年（1929）	p. 39
89	宝船形ポンボニエール		一個		p. 39
90	儀礼帽形ポンボニエール		一個		p. 40
91	鳩に地球形ポンボニエール		一個		p. 40
92	地球儀形ポンボニエール		一個	昭和6年（1931）	p. 40
93	洋書形ポンボニエール		一個	昭和5年（1930）	p. 41
94	紋章付楕円形ポンボニエール		一個	大正11年（1922）	p. 41
95	紋章入楕円形ポンボニエール		一個	大正9年（1920）	p. 42
96	馬蹄形松巴文ポンボニエール		一個		p. 42
97	六花形菊に勾玉文ポンボニエール		一個		p. 42
98	重ね箱形松鶴文ポンボニエール		一個	明治43年（1910）	p. 43
99	箱形燕文ポンボニエール		一個		p. 43
100	亀甲形松喰鶴文ポンボニエール		一個	昭和9年（1934）	p. 43

101	丸隅箱形木目模様ポンボニエール		一個		p. 43
102	重ね箱形ポンボニエール		一個		p. 44
103	六角形松鶴文ポンボニエール		一個		p. 44
104	台付文庫形ポンボニエール		一個		p. 44
105-1	文箱形唐草文ポンボニエール		一個		p. 45
105-2	文箱形唐草文ポンボニエール		一個		p. 45
106	丸香合形梅唐草文ポンボニエール		一個		p. 45
107	丸形梅枝文ポンボニエール		一個	昭和18年（1943）	p. 45
108	箱形松梅文ポンボニエール		一個	昭和18年（1943）	p. 45
109	紋入丸形ポンボニエール		一個		p. 46
110	御紋丸容器形ポンボニエール		一個		p. 46
111	馬蹄形ポンボニエール		一個		p. 47
112	台付箱形桐文ポンボニエール		一個	昭和3年（1928）	p. 47
113	箱形ポンボニエール		一個		p. 48
114	扇形ポンボニエール		一個		p. 48
115	重ね箱形梅文ポンボニエール		一個		p. 49
116	食籠形ポンボニエール		一個	昭和2年（1927）	p. 49
117	卵形弓に菊文ポンボニエール		一個		p. 50
118	唐櫃形桐鳳凰文ポンボニエール		一個		p. 50
119	六角形岩に杜若文ポンボニエール		一個		p. 51

図
版





1-1 楕円形鶴亀文ポンボニエール
明治27年(1894)明治天皇大婚25年祝典
銀製 刻印「明治二十七年三月九日」
5.7×4.6 高1.6



1-2 丸形鶴亀文ポンボニエール
明治27年(1894)明治天皇大婚25年祝典
銀製 刻印「明治二十七年三月九日」
径5.2 高1.8



2-2 柏葉筐形ポンボニエール
大正4年(1915)大正大礼大饗第2日
銀製
6.1×6.05 高2.9



2-1 入目籠形ポンボニエール
大正4年(1915)大正大礼大饗第2日
銀製
径6.6 高2.9



2-3 八稜鏡形鳳凰文ポンボニエール
大正4年(1915)大正大礼
銀製 刻印「村松製」
径6.4 高2.5



3-1 双鶴置物形ポンボニエール
大正14年(1925)6月30日大正天皇大婚25年祝典
銀製 刻印「三越製純銀*」
台5.5×6.3 総高8.4



3-2 菊花形鳳凰文ポンボニエール
大正14年(1925)5月10日大正天皇大婚25年祝典
銀製 刻印「純銀」「宮本造」
径5.9 高3.1



4 六花形鶴文ポンボニエール
大正5年(1916)11月29日立太子(昭和天皇)
銀製 刻印「純銀」「小林製」
6.0×6.4 高2.2



5-2 丸形松喰鶴文ポンボニエール
大正8年(1919)5月13日東宮御成年式(霞闕離宮にて午餐)
銀製 刻印「純銀」「小林製」
径5.2 高2.0



5-1 八稜鏡形鶴文ポンボニエール
大正8年(1919)5月10日東宮御成年式
銀製 刻印「純銀」「小林製」
6.3×6.2 高2.5



6-2 箱形波文ポンボニエール

大正10年(1921)9月15日東宮御帰朝の節午餐
銀製 刻印「純銀」「服部製」
5.2×3.9 高1.95



6-1 箱形波文ポンボニエール

大正10年(1921)9月15日東宮御帰朝の節午餐
銀製 刻印「純銀」「小林製」
5.5×4.25 高2.3



7-2 卵形亀甲文ポンボニエール

大正13年(1924)6月7日東宮御結婚
銀製 刻印「三越製」「純銀」
4.8×6.2 高4.0



7-1 六角松鶴文ポンボニエール

大正13年(1924)5月31日東宮御結婚
木製(紫檀)
4.6×5.3 高3.0



8-3 威儀桿形ポンボニエール

昭和3年(1928)昭和大礼

銀製、錦

3.2×3.2 高17.3



8-1 雅楽大太鼓形ポンボニエール

昭和3年(1928)11月17日昭和大礼大饗第2日

銀製 刻印「純銀服部製」

4.45×4.4 高11.1



8-2 釣燈籠形ポンボニエール

昭和3年(1928)11月17日昭和大礼大饗第2日夜宴

銀製 刻印「純銀」「寅」

5.4×5.4 高4.7



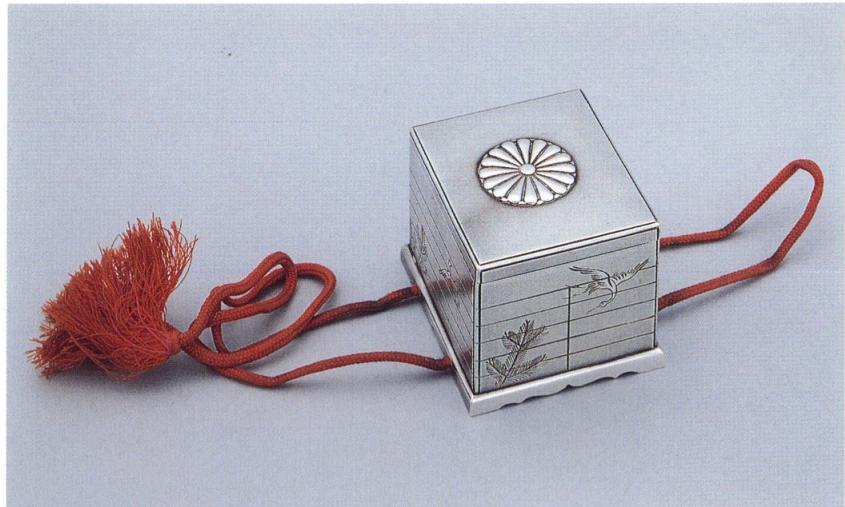
9-2 短冊形朝顔松枝文ポンボニエール

昭和24年(1949)1月26日

昭和天皇御結婚25年(銀婚式)御祝宴

銀製 刻印「純銀」「小林製」(木の葉形印)

8.5×3.3 高1.3



9-1 重ね箱形松鶴文ポンボニエール

昭和24年(1949)1月26日昭和天皇御結婚25年(銀婚式)御祝宴

銀製 刻印「純銀」

4.9×4.3 高4.2

10 丸形竹梅文ポンボニエール

昭和49年(1974)1月26日

昭和天皇金婚式御内宴

銀製

径5.4 高3.2

11-1 丸形竹文ポンボニエール

昭和46年(1971)3月

昭和天皇古希祝賀

銀製 刻印「銀製」

径6.0 高2.3

11-2 丸形桃枝文ポンボニエール

昭和48年(1973)3月9日

皇太后陛下古希祝賀御内宴

銀製 刻印「銀製」

径6.0 高2.2

11-3 丸形竹に鳩文ポンボニエール

昭和56年(1981)昭和天皇八十賀

銀製 刻印「銀製」

径6.0 高3.2

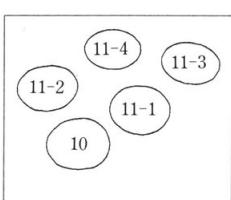
11-4 丸形桃文ポンボニエール

昭和58年(1983)3月6日

皇太后陛下八十賀

銀製 刻印「銀製」

径6.0 高3.2





12-1 丸形西欧地図入りポンボニエール
昭和46年(1971)昭和天皇御訪欧記念
銀製 刻印「銀製」
径6.0 高4.7

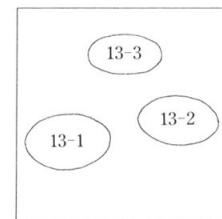
12-2 丸形北米地図入りポンボニエール
昭和50年(1975)昭和天皇御訪米記念
銀製 刻印「銀製」
径5.5 高3.2



13-1 御紋丸形ポンボニエール
昭和51年(1976)
昭和天皇御在位50年
銀製
径6.0 高3.3

13-2 御紋丸形ポンボニエール
昭和51年(1976)
昭和天皇御在位50年
真鍮製
径6.0 高3.3

13-3 丸形菊枝文ポンボニエール
昭和61年(1986)
昭和天皇御在位60年
銀製
径6.0 高3.4





14 犬張子形ポンボニエール
昭和8年(1933)天皇陛下御誕生御祝宴
銀製 刻印「三越製」
3.0×5.4 高5.0



15-1, 2 丸形鸞鷟文ポンボニエール
昭和27年(1952)11月11日立太子(天皇陛下)菊栄親睦会御昼餐
銀製 刻印「純銀」
径4.7 高2.8



16-2 菊花形双鶴付ポンボニエール

昭和34年(1959)4月3日皇太子殿下(天皇陛下)御結婚御内宴
銀製 刻印「純銀」
径6.0 高2.5



16-1 丸形鸞鷟文ポンボニエール

昭和34年(1959)4月13日皇太子殿下(天皇陛下)御結婚御祝宴
銀製 刻印「銀製」
径5.8 高2.2

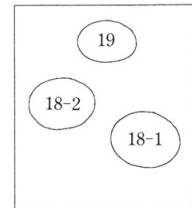


17 丸形榮印桜文ポンボニエール

昭和59年(1984)4月10日
皇太子同妃両殿下(天皇皇后両陛下)御結婚25年(銀婚式)
銀製 刻印「銀製」
径6.0 高3.5



- 18-1 丸形鳳凰文ボンボニエール
平成2年(1990)11月御即位
銀製 刻印「銀製」
径6.0 高3.4
- 18-2 丸形花枝文ボンボニエール
平成3年(1991)12月3日京都御所茶会
真鍮製
径6.0 高4.0
- 19 丸形菊葉文ボンボニエール
平成11年(1999)11月御即位10年
銀製 刻印「銀製」
径6.0 高3.5



- 20-1 暮盤形ボンボニエール
昭和39年(1964)
徳仁親王殿下(皇太子殿下)御着袴
銀製 刻印「銀製」
4.35×5.0 高3.0
- 20-2 扇形梅文ボンボニエール
昭和45年(1970)10月18日
文仁親王殿下(秋篠宮殿下)御着袴
銀製 刻印「銀製」
5.7×6.4 高1.4
- 20-3 花形羊草文ボンボニエール
昭和48年(1973)12月
清子内親王殿下(紀宮殿下)御着袴
銀製 刻印「銀製」
径5.7 高2.15



21 丸形鶴文ポンポニエール
平成3年(1991)立太子(皇太子殿下)
銀製 刻印「銀製」
径6.8 高2.65

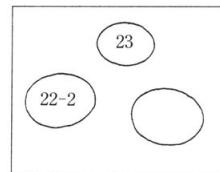


22-1 丸形松鶴文ポンポニエール
平成5年(1993)皇太子殿下御結婚
銀製 刻印「銀製」
径5.8 高2.3



22-2 丸形鶴鳩文ポンボニエール
平成5年(1993)皇太子殿下御結婚
銀製 刻印「銀製」
径5.8 高2.4

23 丸形梅檜扇菖蒲文ポンボニエール
平成2年(1990)文仁親王殿下(秋篠宮殿下)御結婚
銀製 刻印「銀製」
径5.7 高3.3



写真右下は図版16-2参照



図版22-2参照：通常は五色の金平糖を納める。



図版12-2参照：干菓子が入れられていた例。



参考作品：昭和43年宮殿落成の際に制作された。



24-2 箱形松唐草文ボンボニエール

大正11年(1922)6月雍仁親王(秩父宮)御成年式御内宴
銀製 刻印「三越製」「純銀」
5.15×3.95 高1.9

24-3 箱形松唐草文ボンボニエール

大正11年(1922)6月雍仁親王(秩父宮)御成年式御内宴
銀製 刻印「三越製」「純銀」
5.65×4.25 高2.2



24-1 箱形雲鶴文ボンボニエール

大正11年(1922)12月5日雍仁親王(秩父宮)御成年式
銀製 刻印「純銀サムライ*」(扇形に⑤)
6.3×4.45 高3.1



25 丸形鳳凰文ボンボニエール

旧秩父宮家紋付
銀製
径6.1 高3.6



26 鼓形若松星文ボンボニエール

昭和3年(1928)秩父宮御婚儀前御内宴
銀製

径4.25 長5.8

故秩父宮妃殿下のご著書「銀のボンボニエール」の題名となった作品。



26部分:「若松と星」の文様



27-2 丸形梅花散文ポンボニエール
大正14年(1925)1月13日高松宮御成年式
銀製 刻印「三越製」「純銀」
径6.4 高2.6



27-1 箱形梅花散文ポンボニエール
大正14年(1925)1月13日高松宮御成年式
銀製 刻印「三越製純銀*」
5.2×3.9 高2.0



29 入隅箱形鳥居杉木立文ポンボニエール
昭和10年(1935)12月3日三笠宮殿下御成年式
銀製 刻印「純銀三越」
5.6×4.6 高1.9



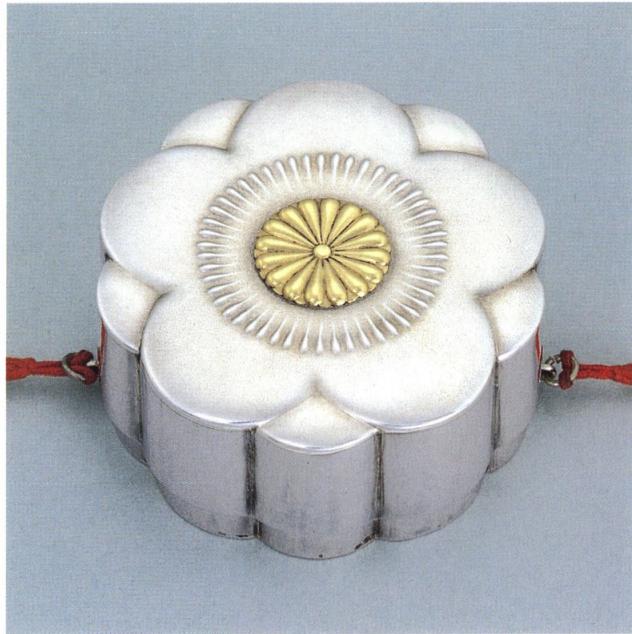
28 洲浜形松波文ポンボニエール
昭和5年(1930)高松宮御結婚
銀製 刻印「昭和五季春」
3.95×6.2 高1.8



30-2 扇形三笠山に若杉桐図ポンボニエール
昭和16年(1941)12月7日三笠宮殿下御結婚御晚餐
陶器、色絵、銀彩
6.8×9.4 高3.0

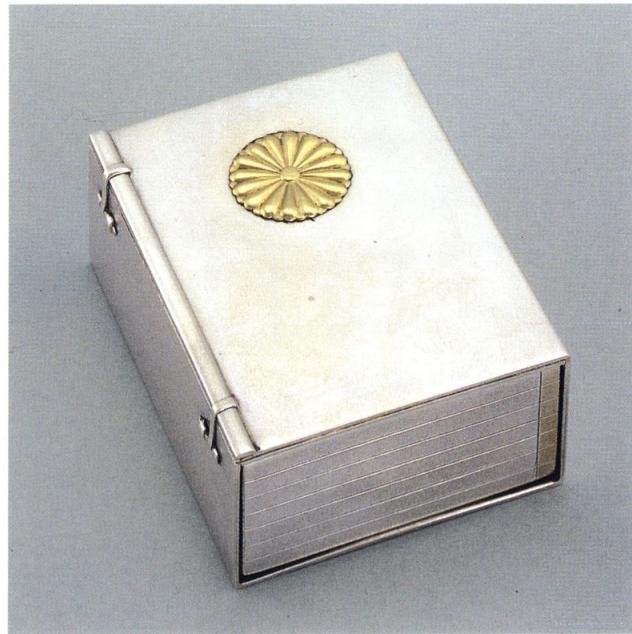


30-1 八花形桐文ポンボニエール
昭和16年(1941)11月2日三笠宮殿下御結婚御晚餐
アルミ
径5.9 高2.0



32 梅花形ポンボニエール

昭和4年(1929)12月6日照宮成子内親王御着袴
銀製 刻印「昭和四年十二月六日」
径5.1 高2.7



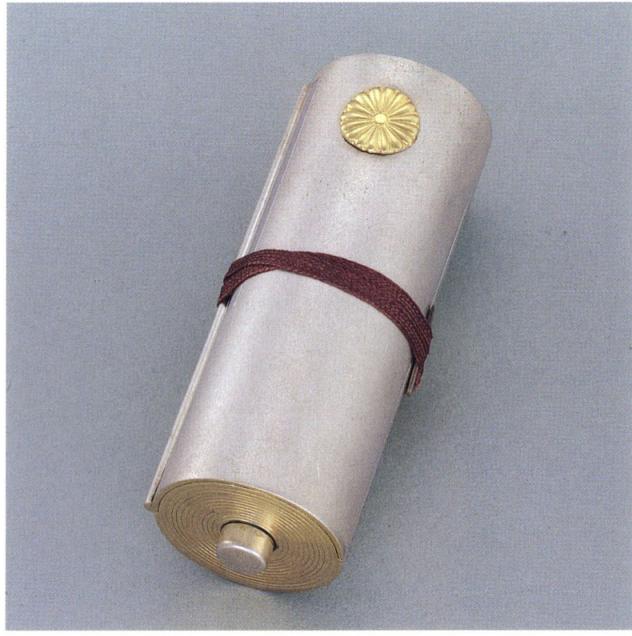
31 岐入り和書形ポンボニエール

大正14年(1925)12月12日照宮成子内親王御命名
銀製 刻印「三越製」「純銀」
5.5×4.2 高2.2



34 丸形菊花文ポンボニエール

昭和9年(1934)3月16日孝宮和子内親王御着袴
銀製 刻印「孝宮御着袴記念」
径6.0 高2.8



33 巷物形ポンボニエール

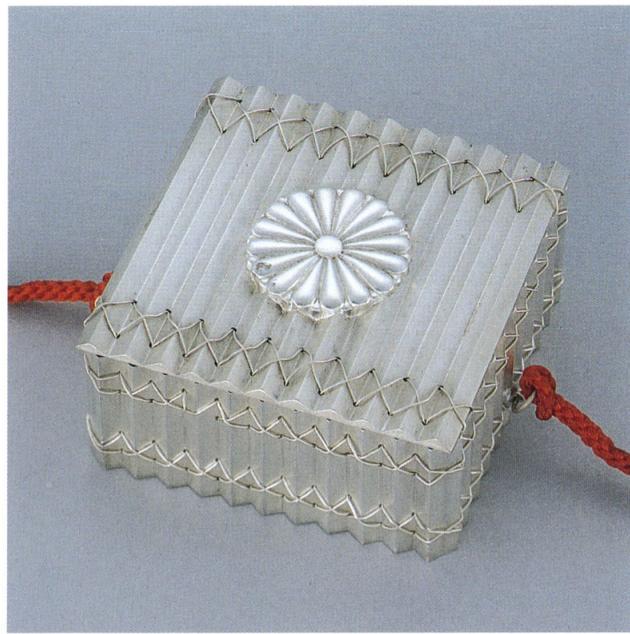
昭和4年(1929)10月6日孝宮和子内親王御命名
銀製 径2.6 高7.7



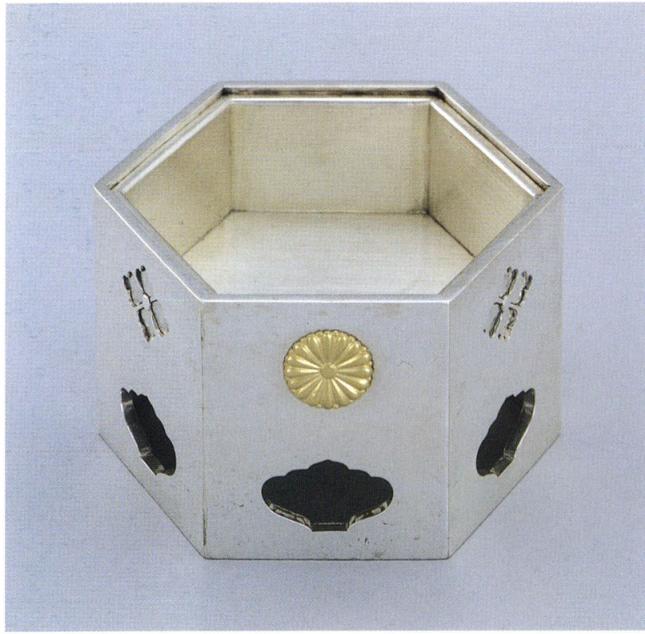
35 箱形弓に巻物文ポンボニエール
昭和6年(1931)3月19日順宮厚子内親王御命名
銀製 刻印「*」「純銀」
5.5×4.55 高1.5



36 でんでん太鼓形ポンボニエール
昭和10年(1935)12月5日正仁親王殿下(常陸宮殿下)御誕生御内宴
銀製 刻印「純銀」「三越」
径4.6 全長9.9



37 柳箱形ポンボニエール
明治41年(1908)4月竹田宮家御結婚
銀製
5.1×5.15 高2.6



39 六角火爐形ポンボニエール
銀製 刻印「純銀」「三越」
5.2×5.8 高3.65



38 炭箱形ポンボニエール
銀製 刻印「純銀三越」
6.2×4.7 高5.6



41 檜扇形ポンボニエール

旧閑院宮家紋付
銀製 刻印「銀製三越」
5.7×6.0 高1.35



40 重扇形松竹梅文ボンボニエール

旧伏見宮家紋付
銀製 刻印「純銀」「天賞堂」
3.95×7.9 高2.0



43 重扇形松竹梅文ボンボニエール

銀製 刻印「銀製」
11.2×6.8 高1.4



42 檜扇形藤桜文ボンボニエール

旧竹田宮家紋付
銀製 刻印「銀製」「宮本造」
9.8×4.3 高1.2



45 舞楽兜形ポンボニエール

大正15年(1926)
銀製 刻印「三越製」
6.3×6.3 高4.9



44 舞楽兜形ポンボニエール

銀製 刻印「純銀」「宮本」
7.4×6.3 高5.1



47 御所車形ポンボニエール

銀製
8.65×4.5 高5.75



46 鶴首船形ポンボニエール

銀製 刻印「純銀」「三越」
3.7×9.5 高4.7



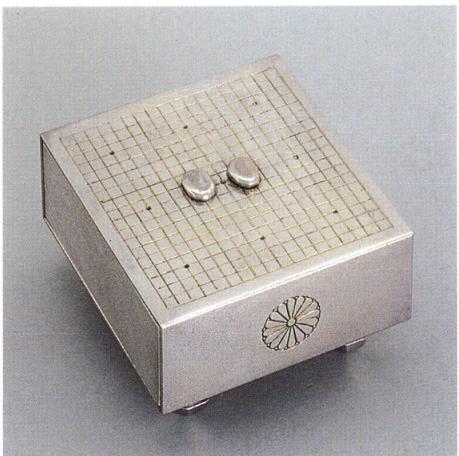
49 双六盤形ポンボニエール
銀製
4.90×3.20 高3.0



48 蹤鞠形ポンボニエール
銀製
鞠4.4×4.9 高4.4 総高7.5



51 八稜鏡形梅文ポンボニエール
旧北白川宮家紋付
銀製
径5.0 高1.9 総高3.1



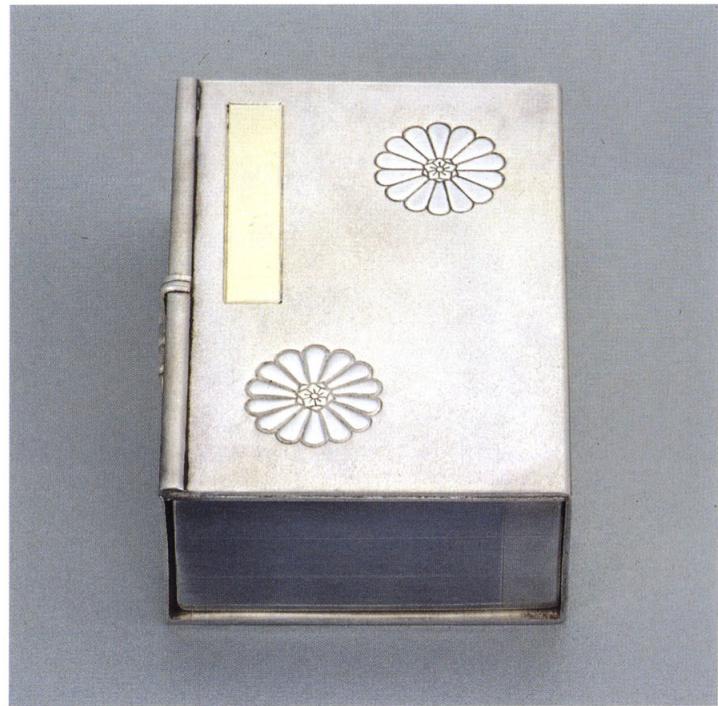
50 暮盤形ポンボニエール
大正8年(1919)12月2日崇仁親王殿下(三笠宮殿下)御着袴
銀製
5.25×4.7 高3.1



53 柄鏡箱形すみれ文ポンボニエール
銀製 刻印「純銀」「小林」
8.1×5.8 高1.45



52 八稜鏡形ポンボニエール
銀製 刻印「純銀」「小林製」
径5.1 高2.1



54 帧入和書形ポンボニエール
銀製 刻印「純銀」「天賞堂」
5.6×3.8 高2.0



56 文台硯箱形ポンボニエール
銀製
3.6×7.05 高2.4



55 飾棚形ポンボニエール
銀製 刻印「三越製」「純銀」
3.4×7.15 高5.4



58 香炉形ポンボニエール
大正13年(1924)12月20日米国大使との午餐
銀製
径5.4 高6.4



57 香炉形ポンボニエール
銀製
径5.4 高5.6



60 糸目丸櫃形ポンボニエール
銀製 刻印「純銀」「宮本造」
径4.9 高5.7



59 桶形ポンボニエール
銀製
口径2.7 高9.0



61 丸櫃形松鶴文ポンボニエール
銀製 刻印「純銀」
4.5×4.5 高5.4



62 菊鉢植形ポンボニエール
銀製
4.2×4.75 高10.4



63 竹筒形ポンボニエール
銀製
径4.1 高5.3



65 竹形ポンボニエール
銀製 刻印「純銀」「鈴木製」
口径5.0 高2.1



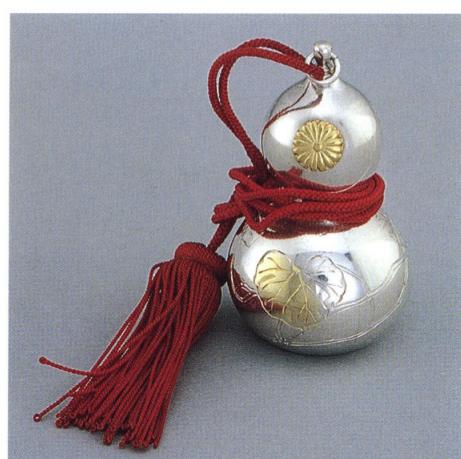
64 竹形ポンボニエール
昭和9年(1934)7月竹田宮恒徳王御結婚
銀製 刻印「純銀」「宮本造」
6.5×3.15 高1.9



67 桃形ポンボニエール
旧北白川家紋付
銀製、葉と枝:着色 刻印「純銀」
6.3×3.2 高4.05



66 桃形ポンボニエール
大正14年(1925)5月14日秩父宮英國留学につき御送別
銀製
5.3×4.7 高4.1



68 葫芦形ポンボニエール
銀製
径3.4 高5.6



69 うさぎ置物形ポンポニエール

旧朝香宮家紋付
銀製 刻印「純銀」「新城製」
6.8×4.8 高6.5



70 親子亀置物形ポンポニエール

銀製
4.7×5.5 高4.0



71 鷹置物形ポンボニエール

銀製
台径5.2 高7.9



72 諫鼓形ポンボニエール

銀製
台脚4.2×4.2 高9.55



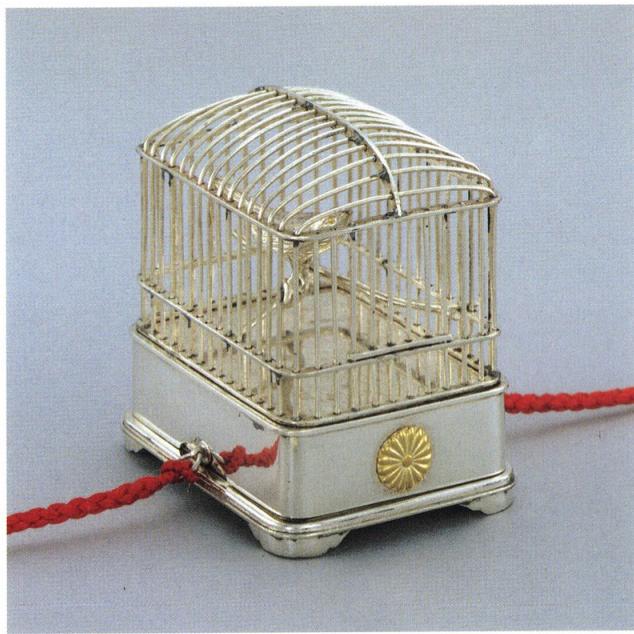
73 鳥籠形ポンボニエール
大正10年(1921)12月7日フランス新任大使ポール・クローデル氏との午餐
銀製
径5.2 高8.3



74 籠に鶲形ポンボニエール
大正13年(1924)11月27日シャム国(タイ王国)皇族プラジャチボク氏との午餐
銀製
径4.7 高7.0



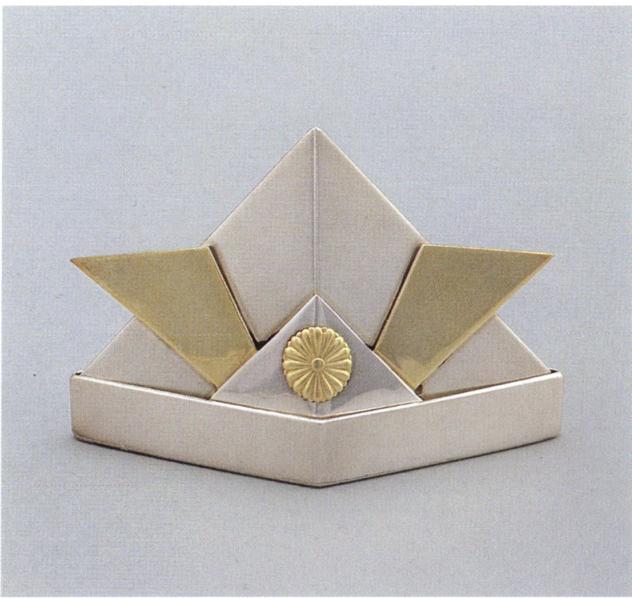
75 鳥籠形ポンボニエール
大正13年(1924)5月29日ウッズ米国大使帰国につき午餐
銀製
5.35×4.25 高5.4



77 鳥籠形ポンボニエール
銀製 刻印「三越銀製」
4.95×5.4 高5.0



76 鳥籠形ポンボニエール
大正15年(1926)スウェーデン皇太子との午餐
銀製
径5.5 高7.5



79 折紙兜形ポンボニエール

銀製 刻印「純銀」
3.1×7.4 高5.0



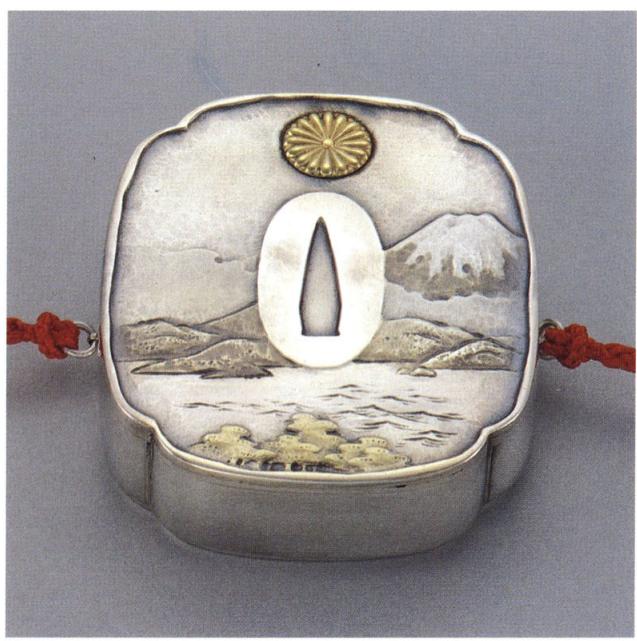
78 胴形ポンボニエール

大正15年(1926)9月13日スウェーデン皇太子との午餐
銀製
6.0×6.9 高4.8



81 印籠形ポンボニエール

銀製、赤銅、珊瑚 刻印「純銀」
6.4×4.1×1.35



80 鎧形ポンボニエール

銀製
5.8×4.8 高1.5



83 提灯形ポンボニエール

銀製 刻印「銀製」
径5.2 高6.85



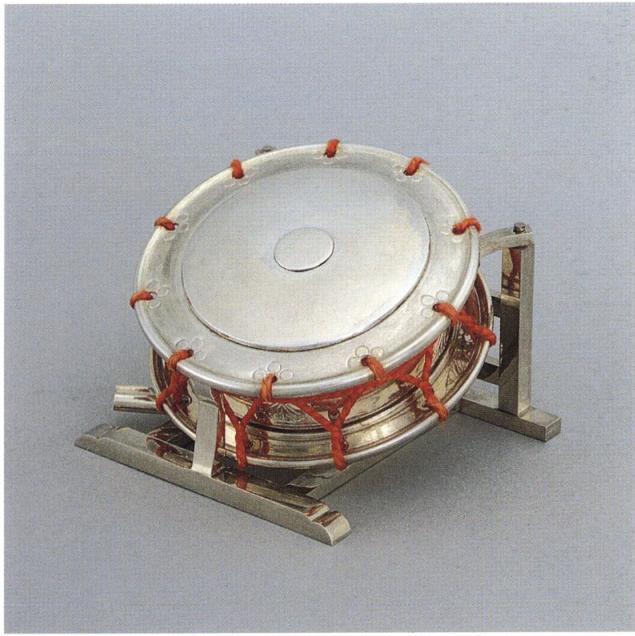
82 駕籠形ポンボニエール

銀製
全長11.6 高4.4



85 太鼓形ポンボニエール

銀製 刻印「純銀」「小林」
4.3×4.2 高7.1



84 能太鼓形ポンボニエール

銀製
5.3×4.8 高3.6



87 団扇形萩流水文ポンボニエール

銀製

6.05×3.7 高1.75



86 軍配形菊桐文ポンボニエール

銀製

6.4×3.6 高1.9



89 宝船形ポンボニエール

銀製、珊瑚 刻印「三越」「銀製」

3.1×9.2 高6.9



88 和船形ポンボニエール

昭和4年(1929)5月9日英國グロスター公との午餐

銀製

8.6×3.5 高8.2



91 鳩に地球形ポンボニエール

高松宮御外遊御記念

銀製

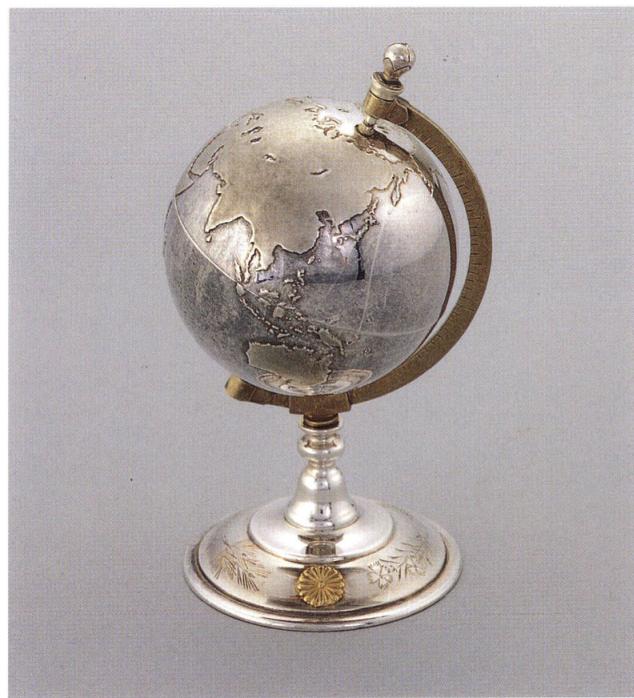
径6.1 高6.0



90 儀礼帽形ポンボニエール

銀製

6.3×4.5 高6.0



92 地球儀形ポンボニエール

昭和6年(1931)6月高松宮(貞明皇后より)

銀製

径5.7 高11.0



93 洋書形ポンポニエール

昭和5年(1930)5月16日
銀製 刻印「純銀」「新城製」
6.9×4.9 高3.2



94 紋章付橢円形ポンポニエール

大正11年(1922) 英国ウェールズ公来日
銀製 刻印「三越製」「純銀」
7.0×5.1 高2.1



96 馬蹄形松巴文ボンボニエール

旧竹田宮家紋付
銀製 刻印「純銀」「宮本造」
6.05×5.6 高1.85



95 紋章付楕円形ボンボニエール

大正9年(1920)ルーマニア皇太子来日
銀製 刻印「純銀」「三越製」
6.6×4.8 高1.8



97 六花形菊に勾玉文ボンボニエール

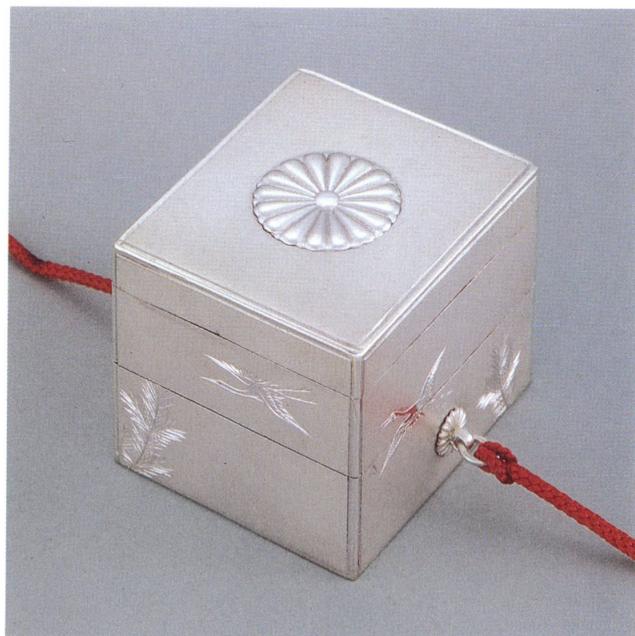
旧北白川宮家紋付
銀製 刻印「純銀」「鈴木謹製」
径5.75 高2.5



99 箱形燕文ボンボニエール

銀製

4.8×3.8 高2.4



98 重ね箱形松鶴文ボンボニエール

明治43年(1910)朝香宮鳩彦王御結婚

銀製

4.9×4.2 高4.1



101 丸隅箱形木目模様ボンボニエール

銀製 刻印「純銀」「宮本造」

6.3×4.5 高2.5

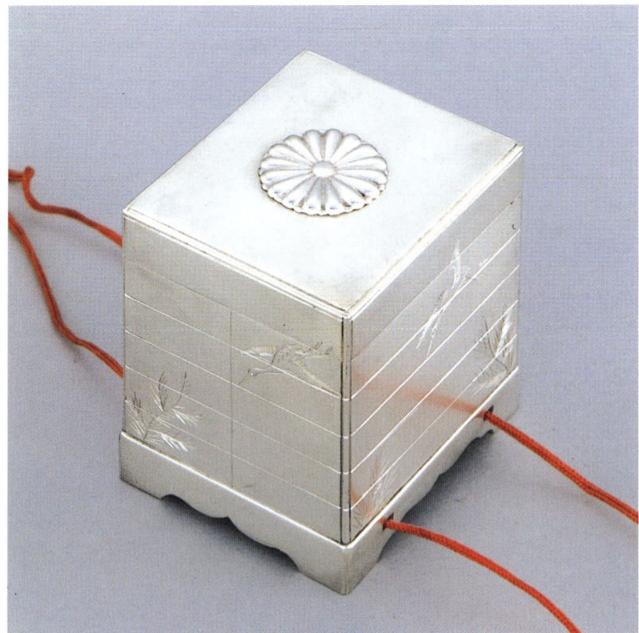


100 亀甲形松喰鶴文ボンボニエール

昭和9年(1934)3月18日竹田宮家禮子女王御送別

銀製 刻印「純銀」「宮本造」

6.65×4.35 高1.7



102 重ね箱形ポンボニエール
銀製
4.7×4.05 高5.0



104 台付文庫形ポンボニエール
旧朝香宮家紋付
銀製 刻印「純銀」「宮本造」
6.0×5.05 高2.5



103 六角形松鶴文ポンボニエール
旧朝香宮家紋付
銀製 刻印「純銀」「宮本造」
6.3×5.4 高2.3



106 丸香合形梅唐草文ポンボニエール

木製、摺漆、銀色蒔絵
径6.8 高2.7



105-1 文箱形唐草文ポンボニエール

木製、漆塗、蒔絵
6.7×3.5 高2.4

105-2 文箱形唐草文ポンボニエール

木製、漆塗、蒔絵
6.65×3.0 高2.35



108 箱形松梅文ポンボニエール

昭和18年(1943)12月6日東久邇宮盛厚王成子内親王御結婚
紙胎、黒漆塗、蒔絵
7.4×6.1 高3.3



107 丸形梅枝文ポンボニエール

昭和18年(1943)12月6日東久邇宮盛厚王成子内親王御結婚
竹、摺漆、銀色蒔絵
径5.6 高2.3



図版6-1(p10)の刻印[底裏部分]



図版109の刻印[底裏部分]



109 紋入丸形ボンボニエール
旧有栖川宮家紋付
銀製、七宝 刻印「小林製」(木の葉形印)
径4.5 高2.4



図版110の刻印[底裏部分]



110 御紋丸容器形ボンボニエール
銀製 刻印「重光*」「純銀」
径5.0 高2.7

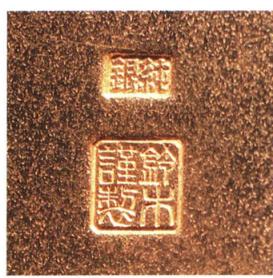


図版111の刻印[身内側中央]



111 馬蹄形ボンボニエール

銀製 刻印「純銀」「大勝堂」
5.1×4.6 高2.15



図版97(p42)の刻印[底裏部分]



図版112の刻印[台座底裏]

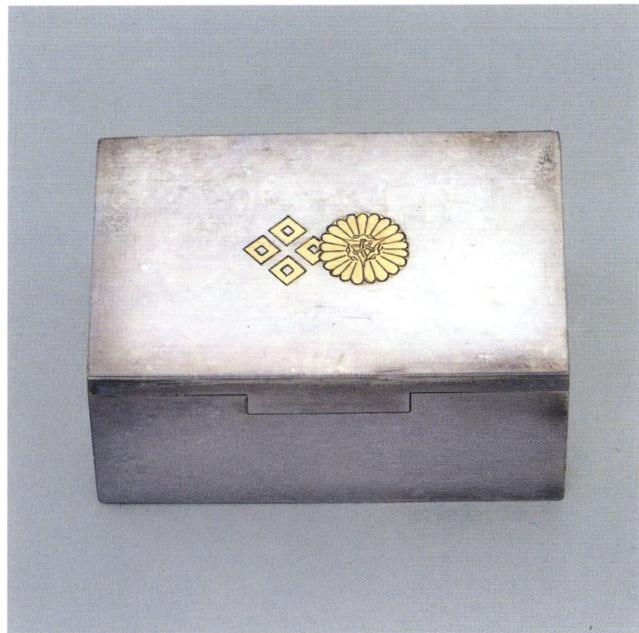


112 台付箱形桐文ボンボニエール

昭和3年(1928)4月28日
銀製 刻印「純銀鉛木製」「昭和三年四月二十八日」
6.65×4.7 高4.0



図版113の刻印[底裏部分]



113 箱形ポンボニエール
東伏見家及び亀井家紋付
銀製 刻印「純銀①製」
3.6×5.5 高2.5



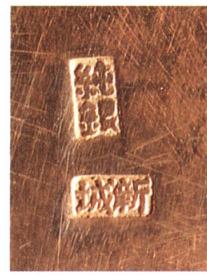
図版114の刻印[底裏部分]



114 扇形ポンボニエール
伏見家及び柳沢家紋付
銀製 刻印「銀製」「FT.B *」
3.6×7.1 高2.85



図版69(p33)の刻印[底裏部分]



図版115の刻印[底裏部分]



115 重ね箱形梅文ポンボニエール

銀製 刻印「純銀」「新城」

6.4×5.4 高2.4



図版116の刻印[底裏部分]



116 食籠形ポンボニエール

銀製 刻印「純銀」「服部製」

径6.3 高2.6



図版117の刻印〔底裏部分〕

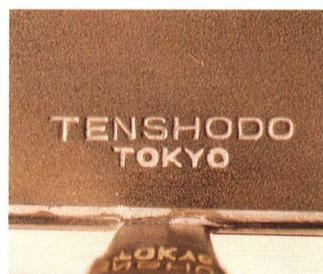


117 卵形弓に菊文ポンボニエール

旧北白川宮家紋付
銀製 刻印「純銀」「*」(印)
6.0×4.5 高2.35



図版54(p29)の刻印
〔底裏部分〕



図版118の刻印〔底裏部分〕



118 唐櫃形桐鳳凰文ポンボニエール

銀製 刻印「TENSHODO TOKYO」
5.05×6.45 高5.0



図版119の刻印[底裏部分]



119 六角形岩に杜若文ボンボニエール

銀製 刻印「純銀」「稲葉謹製」

5.65×6.5 高3.6



図版27-1(p22)の刻印[底裏部分]



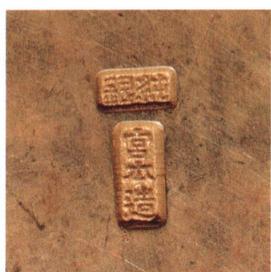
図版24-1(p20)の刻印[底裏部分]



図版8-2(p11)の刻印[底裏部分]



図版2-3(p7)の刻印[底裏部分]



図版101(p43)の刻印[底裏部分]

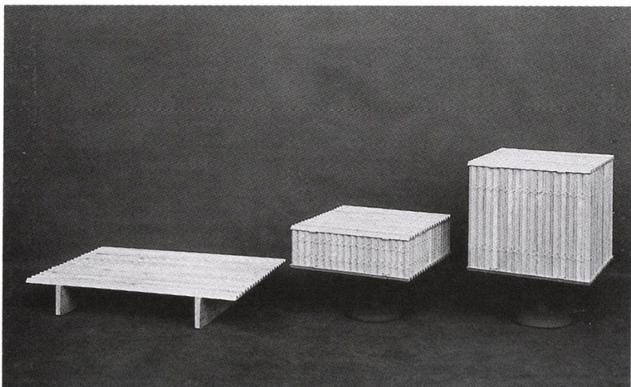


図版100(p43)の刻印[底裏部分]



図版35(p24)の刻印[底裏部分]

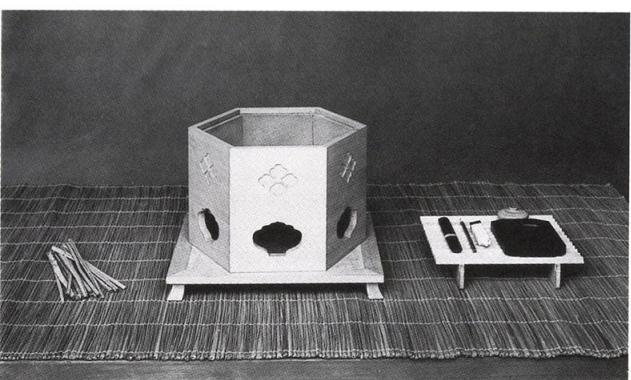
参考—ポンボニエールの意匠に引用された「かたち」『大禮記録』『昭和大禮要録』より



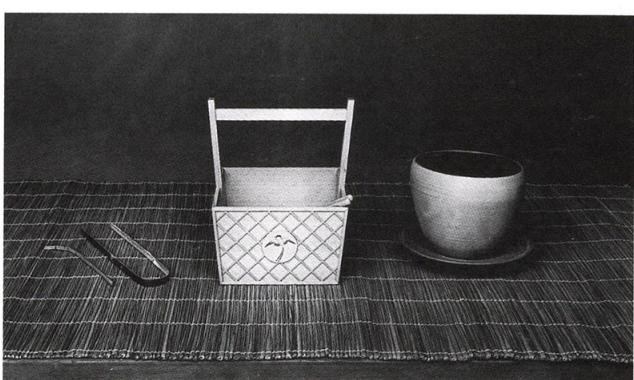
柳箱 図版37(p25)



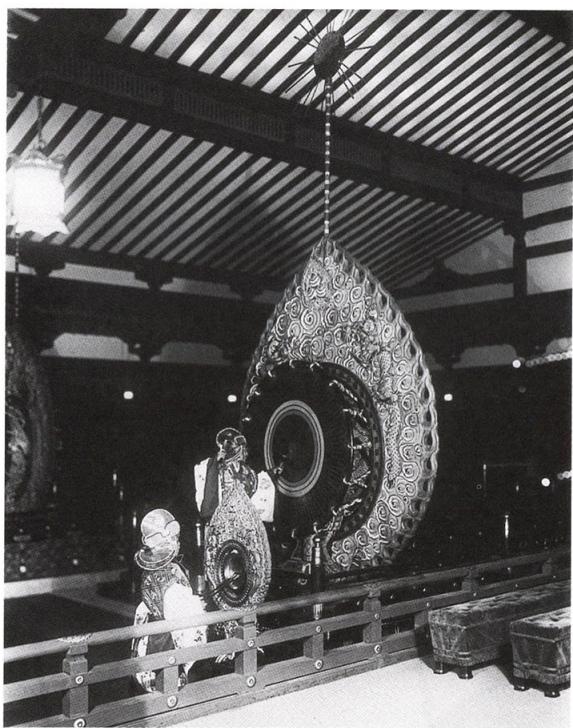
入目籠 図版2-1(p7)



火爐 図版39(p25)



炭箱 図版38(p25)



太鼓と舞楽兜 図版8-1・45(p11・27)



黒木釣燈籠・白木釣燈籠 図版8-2(p11)

明治二十七年——宮中ボンボニエール事始

そもそもいかなるものだつたのだろうか。

ボンボニエールとは、いつたい何なのか。きわめて単純な問い合わせるが、具体的かつ明快に説明しようとすればするほど、この問題は、意外なほど返答がやつかいなものであることに気づく。まず第一に、「ボンボニエール」という語彙は『広辞苑』をはじめとする今日の一般的な国語辞典には、まったく収録されていない。百科事典の場合も同様である。そこで、発音から見当をつけてフランス語辞典を開くと、bonbonnièreは「美しくてしゃれた小型のキャンディー缶や壺」であるといつたほどの意が記されており、bonbonの項も参照せよとの指示がある。ではbonbonは何かというと、砂糖が多く用いられたボンボンや、キャンディー、すなわちアメ、キヤラメル、チョコレート菓子等の総称のことである。さてボンボンとは? 再び『広辞苑』に戻ると、この語はみつけることができ、「ボンボン【bonbonオランダ】外皮を砂糖で固め、中には果汁またはブランデー・ウイスキーなどを入れたキャンディー」と説明されている。つまり、あの懐かしい「ウイスキー・ボンボン」のボンボンである。さらに英語の辞書も参照すると、やはりbonbonnièreはフランス語からの外来語で、ボンボンを入れる容器のこと、一方bonbonはジャム、ナツツ等を糖菓やチョコレートでくるんだキャンディーであるボンボン、もしくは砂糖菓子や飴を指すcandy(キャンデー)であるという。実は食べ比べると判然とするのだが、欧米各国のみならず日本も含めて、世界中でボンボンやキャンディーと称される菓子の実態は少しずつ異なっているのだ。ちなみにいえば、フランス語でのcandisationという女性名詞は、溶かし砂糖を固めて氷砂糖にしたり、果物を砂糖漬にする過程や行為の意味である。ともかくも、ボンボニエールというのは、"ボンボン"や"キャンディー"用の容器であるらしいのだが、今度はその容器がいかなる形状、装飾のもとで「美しくいやれた」ものとなつているのかを知るためにごく手軽にベンギン社版の装飾美術事典を引くと、「スウェーツ(訳註・英國でのドロップやキャンディー)用の小型の容器で、多くはぎわめて凝った装飾が施されている」(註1)とあるのみで、その起源や歴史はもちろんのこと、典型的な形態やサイズ、作例までは教えてくれない。その他のフランス、アメリカ、イギリス、ドイツの各種の美術事典の場合も大同小異で、本家がこのありさまだから、日本の美術辞事典等に期待するのは無理というものであろう。

それでは、宮中で「ボンボニエール」と呼び慣らわされ、いまに続く日本のボンボニエールとはどのような性格の器物と考えられるのか。そして、そのはじまりはそもそもいかなるものだつたのだろうか。

日本の近代宮中でのボンボニエールの起源をたずねるうえで、あらかじめ調べておく必要があるのは、十九世紀までの西欧でのボンボニエール、ことにフランスのものがどのようなものであつたかということであろう。なぜならば、「ボンボン」がオランダ語を語源としていることはともかくとして、ボンボニエールがフランス語である以上、日本の帝室や宮内省が参考としたのは十九世紀以前のフランス等のボンボニエールのありようだつたと思われるからである。

ところが、実に驚くべきことに、予想に反して蓋付の小型菓子容器としてのボンボニエールは、十八世紀のロココ時代はいうにおよばず、十九世紀にいたつてもフランスではほとんど作例をみいだせない。工芸史上に姿をわずかにあらわしはじめののはようやく世紀末のアール・ヌーヴォー期のことと、多くみられるようになるのは二十世紀初頭のアール・デコの時代にいたつてからといえる。しかも、そのほとんどは、フランス本国よりも、むしろアメリカの上流社会でもてはやされたものらしく、事実、輸出用の日本製品であるアール・ヌーヴォーやアール・デコ様式のオールド・ノリタケの優美で洗練された陶磁のボンボニエールは、主にアメリカの人々向けに製造されたものであつた(註2)。これに対しても、十九世紀中期前後までのフランスの富裕な食卓を彩る糖衣菓子用容器は、無蓋の大ぶりな深皿やコンポート様の形態が一般的だつたのである。したがつて、日本の宮中の宴席に添えられるボンボニエールがフランスの事例を直接手本としたとするには、やや無理がある。もちろん時代的には、フランス美術工芸界の最新流行であつたアール・ヌーヴォーの潮流のなかでのボンボニエールの台頭に日本人がめざとくヒントを得たと想像するのは楽しいが、本展で紹介する、ごく初期のものと思われる明治二十七年(一八九四)製の作品(出品番号1-1、2)とアール・ヌーヴォー期のフランスのものとでは様式や形態が異なりすぎており、その可能性は薄い。

そうだとすれば、次に、明治期の帝室、宮内省が何よりも宮中用洋食器の理想ととらえていた十九世紀ヴィクトリア朝のイギリスのテーブル・アート(註3)のなかに、日本のボンボニエールの源泉を求めてはどうだらうか。しかし、残念ながらこの仮説も成立しない。そもそもイギリス人の好む伝統的で「上品な」デザート菓子は、カスタードカップに注がれた「スイートミート」等の飲料ないしはゼリー状のもので、彼らはボンボンやチョコレートですら、この独特なグラスに入れることができるのである。そうでなければ、アフタヌーンティーでよく用いられる段重ねの銀製ケーキスタンドないしは同型の陶磁製センターピースに茶菓を盛るかであり(註4)、

いずれにしても、上流社会の宴席に蓋付のキヤンデー・ボックスが登場するのはあまり聞かれない話であるとことである。

だが、ここで推測の糸がまつたく切れてしまったわけではない。実はフランスやイギリスではなく、ドイツ圏では、十八世紀から十九世紀にかけての時代に、日本の宮中ボンボニエールとよく似た形態の大小さまざまなテーブル用磁器製蓋物が少なからず造られ、ことにマイセン窯の作例は今日でもしばしば、欧米の美術館で眼にすることができる(註5)。あるいは用途にこだわらないならば、蓋付という点でいうと、フランスのセーブル窯以外では、やはりマイセン窯製品に数多いコレートカップも「蓋物菓子容器」と呼べないこともない。だとすれば、近代日本の宮中でのボンボニエールのひとつ発想源はドイツに求められるのだろうか。そして、求めることが可能ならば、その史的な論拠はいつたいどこにあるのか。

明治の宮中ではじめて肉料理が試みられたのは、よく知られるように明治五年のこと、ついで西洋料理が供進されるのは翌六年七月からであり、その後、明治十五六年になると、延遠館で宮内省主催の洋食宴会も実施されることとなる。そして、それらのメニューをみる限りでは、デザートとして供されたのは「製菓 鶏卵牛乳混合製蒸」「飾製菓數品」「和漢洋果実數品」(明治十五年)、「製菓 牛乳鶏卵蒸製」「同 挽茶入牛乳油製」「同 菓子數品」「果実 和洋數品」(明治十六年)であり(註6)、まずはイギリス風のコースであったと考えられる。また、ここで「製菓 鶏卵牛乳⋮」というのはムースやブーディングのことと思われ、おそらくは大膳課に伝えられている十九世紀イギリス製のカスタードカップ(註7)が容器として用いられたのであろう。

しかし、少なくとも各種の文献史資料を調べた範囲内から判断すると、宴席出席者各人に配られる蓋付の小型菓子器、すなわち“ボンボニエール”が添えられることになるのは、ほぼ確実に明治二十七年の明治天皇大婚二十五年の折が最初であつたといえる。実際、この調査結果は、現存が認められる最古のボンボニエール三種がいずれもこの時の祝宴(参考図1)のために制作されたものであるという史実と合致するのである。そのうち先にも触れた《楕円形鶴亀文》と《丸形鶴亀文》の二種は本展で公開しているもので、もう一種の《鶴亀置物形》(参考図2の右側)もかつて、個人蔵の現存作例二点が「明治天皇を偲びたてまつる 臨幸百十年特別展」(昭和六十一年十月、社団法人霞会館)で一般公開されている。これら三種の「銀製菓子器」は、明治二十七年四月十日発行の『風俗画報』誌第七十一号(東陽堂)によれば(註8)、「大典挙式の恩命に沿せし者一統」に対して「大なる豊明殿にて賜はり

小なるは舞樂後夜会の時賜はりし物なり」とのことと、「立鶴の菓子器は岩の色男子の分は黄にして婦人の分は赤」であったという。また、四月二十五日付『東京日日新聞』紙をみると、当日の祝宴は「洋風御料理の上多人数のことなれば三箇所に別て」催され、「御餐を賜りぬ宴将さに終らんとし御茶を賜ふ時白銀製巖上に丹頂の鶴立ち二尾の亀遊べる菓子器に御菓子を盛りて一同に賜りたり」のち、さらに「各国公使親任官等」には「別殿に於て」「珈琲を賜はり」、ついで実施された「御舞樂」の「終るの後復た御茶と白銀製香入れ形菓子器蓋に鶴亀を刻せるに御菓子を盛りて一同に賜ふ」とこととなつたことがわかる。

ところで、この大規模な式典がほかなり明治天皇御成婚満二十五年の年に企画実行された意義については、T・フジタニや高木博志も指摘しているよう(註9)、日本が欧米的な意味での国際的水準をそなえた近代国家として名実ともに整備されたことを内外に印象づけるとともに、日本の国民に富国強兵、殖産興業等の国家政策を改めてわかりやすい形式で認識させることにあつたと考えられる(註10)。そして、その事前準備として政府は明治二十六年から二十七年一月にかけてイタリア、イギリス、ドイツ、オーストリア各国の君主たちの金婚式と銀婚式の儀式次第を調査しているが、そのうちとりわけ調査報告が詳細にわたり、なおかつ重視された形跡が認められるのがドイツでの例であつた(明治二十六年式部職作成『各國金銀婚式取調録』宮内省書陵部藏文書)。しかも、これに先立つ明治二十二年の憲法発布記念式典の次第も、御雇式部官のモールのプランを受けて、ドイツにおける類例を手本としていたのである。その点からすれば、残された文書記録中にはみいだせなかつたものの、あるいは未知の史料に記されているのかもしれない、ドイツの国家的祝宴の場にあつたであろうマイセン窯製等の蓋物菓子容器も「銀製菓子器」創出のヒントとなつたと推測しても許されるのではないかと思われる。そういうえば、やや大ぶりな《鶴亀置物形》の形状なども、フランスというよりも、むしろドイツ圏のテーブル用飾り物に多くみられる、動物や人物像をモチーフとする陶磁製形物のコラティブな造形的特質との類似を連想させるものといえないだろうか。ただし、出席者各人にあまねく賜るという配布形式には、本図録所収の太田論考で指摘されているように、主催者側にそなわる日本の伝統的な「引出物」の意識が色濃く投影されているのかもしねれない。

ここまで推定を重ねつゝ、日本の宮中ボンボニエールのはじまりと性格について、ごく粗く論をつづってきた。しかし、実のところは、まだまだ解決できない重要な疑問点がいくつか浮かび上がつてくる。その第一は、なぜ総計「千八百五拾個」にも

のぼる個数を金工製品であつらえたのかという」とであろう。器形の原型を用意されしておけば、技術的には陶磁製の方がより容易な手法で大量に制作し得たかもしれないにもかかわらずである。もつとも、ここで銀という素材にこだわった理由のひとつには、「銀婚式」にちなんでという背景があつたのかもしない。そして、それ以上に、銀が明治二十年代の国際社会で紙幣と同価値の貴金属としての「通貨」でもあつたという事実(註11)とも、あるいは無関係ではないのかもしない。

しかし、これほどに大量の銀製金工品の制作を誰が手がけ(註12)、そのデザインはもともとどこで決定されたものなのか。そして、容器のなかに収められたという「五色豆の如き」(前掲『風俗画報』第七十一号)菓子とはいつたい何だつたのか。それは日本の金平糖というよりも、ボルトガルの「金平糖」である糖衣菓子コンフェイトに似たものだつたのだろうか。次々に疑問がわきおこる。さらにいまひとつの大好きな問題は、「銀製菓子器」がいつから「ポンボニエール」と呼び慣らわされることになつたのかが正確に把握できないことである。

このように、日本近代の宮中ポンボニエールの誕生については、まだまだ謎が多い。だが、いずれにせよ、明治二十七年の明治天皇大婚二十五年の式典の場から日本ポンボニエールの歴史は出発し、今日に続くこととなる。その多彩な姿がたちの展開と形態的特質、日本的な造型性の根底に横たわる、日本人の引出物に寄せる心性についての考察は、本図録掲載の他の各論考にゆだねることにしよう。

大熊敏之(おおくま・としゆき／当館学芸室主任研究官)

註

- (1) John Fleming and Hugh Honour "The Penguin Dictionary of Decorative Arts" 1977, London.
- (2) 典型的な作例は、樋田豊次郎監修『オールド・ノリタケの世界』(平成八年、株式会社ノリタケ・カンパニー・ミテド)掲載作品図版参照。
- (3) 掲載『宮中洋食器考』(饗宴—近代のテーブル・アート)展図録(平成十二年一月、三の丸尚蔵館)参照。
- (4) たとえば、明治三十六年刊行の村井弦斎『食道樂冬の巻』の口絵『大隈重信邸温室の食卓』図中にも、そのままが詳細に描写されている。
- (5) 『世界陶磁全集』(十二)世界(三)(昭和六十二年、小学館)掲載の図版246《色紙紋章文蓋物・燭台》が典型的な一例として挙げられる。
- (6) 石井研堂『明治事物起源参照』
- (7) 註(3)掲出文献の所収図版参照。
- (8) 参考図1、2も同文献による。
- (9) T・F・ジタ『天皇のページント』(米山リサ訳／平成六年、日本放送出版協会)、高木博志『近代天皇制の文化史的研究』(平成九年、校倉書房)。
- (10) 『御慶事のかたち』展図録(平成十一年八月、三の丸尚蔵館)所収の拙稿「作家作品解説」参照。
- (11) 掲載『宮内省型』の意味、形状・材質・外交的役割』(調査報告書 温知図録)(平成九年、東京国立博物館)参照。
- (12) 受注窓口となつたのは、おそらく天賞堂だつたのではないかと筆者は推定しているが、文献史資料により裏づけることはできない。

皇室御慶事の引出物としてのボンボニエール

——その伝統性と多彩さ——

西洋化の影響を大きく受けた近代皇室が、慶祝の宴席の記念としての引出物に、西洋の銀製小箱—ボンボニエールを取り入れた。では、それ以前はどのような品が引出物として用いられていたのであろうか。今回の展覧会を企画した二つの視点には、西洋のボンボニエールが単に目新しい品として近代皇室に取り入れられたと考えるのではなく、大きさや材質が受け入れやすく、また形態や文様に好みを反映させやすいという銀製小箱の特質に、日本の伝統的な意匠を十分に生かしえるものとして、皇室の引出物として定着したと考えることが出来るのではないか、ということがあつた。

引出物と深く関係するのは、結婚という慶事である。わが国で、結婚に際して何かの儀式が行われるようになったのは、平安時代、九世紀以降である。貴族の婿入り式の婚姻において、婿は供を従えて牛車か馬に乗り、重観箱や脇息(肘置)、櫛(櫛など一式を備え入れた箱)、鏡台、屏風などの道具を唐櫃に入れて女性の家へ行くのであるが、これが婚礼調度の原型である。鎌倉時代には、武家階級の間で嫁取り婚が始まるが、匂戸裏を囮んで家の子郎党と共に宴会を行うという簡単な儀式であった。ただ、この時、主人は一族結束を促す意味から、家の子郎党らに金銀、絹布、馬具などを与えることが通例となり、これが引出物の始まりと考えられる。室町時代以降、武家においても美しい調度を調べて娘にもたせるようになると、平安時代の寝殿造で用いられていた公家の調度と同様のものを調べ、行列を連ねて嫁入りする風習が始まつた。さらに戦国時代には結納が始まり、両家互いに、太刀や馬、織物、白銀などの多くの品々が、主人や本人にはもちろん、その家の補佐や女中、さらには使者にまでも引出物として贈られた。このように中世の間に、結納、婚礼調度、婚礼行列、引出物といった一連のブライダル・セットが出来上がり、近世には大名から町衆までの幅広い階層でこれらが通例化し、結婚という慶事の形は現在に至つている。

こうした中で、結婚という慶事に伴う引出物は、その記念となる品物を互いに交わすことによって、慶びを分かち合いながらその両家の関係をより深める役割を果たしていた。それが次第に拡大し、何かのお祝いや人生の節目などに際し、記念となる品を関係の人々に贈ることで、その旨の挨拶をし、以後も深く関係を存続させていくために、引出物は存在していると言えよう。

ところで、近世以前の時期に、引出物的な性格で用いられていた品として、扇がある。扇は平安時代前期に日本で誕生したもので、まずは檜の薄板を素材とする檜扇ができる、その後に竹や木、象牙などの骨に紙や絹を張った蝙蝠(紙扇)が出来たとされる。檜扇は、束帶や女房装束などを着した際に威儀を正す一つの料とされ、金銀泥や彩色、美しい色糸などで装飾されて、宮中儀式の装束として今日まで存続している。その一方、蝙蝠は涼をとるための道具としての実用性が高く、また扇合や投扇などの遊興のほか、蹴鞠や香道などの記録、能や茶道などの芸能にも必ず用いられ、幅広く発展した。扇散らしなどの扇をモチーフとした文様、扇を貼り付けた屏風など、扇は日本文化を象徴する一つであり、中国やヨーロッパの扇子にも大きな影響を与えたものであつた。

こうした扇は、十三世紀頃には贈答に用いられ始めていることが知られる。例えば、『明月記』元仁二年(一二三五)四月八日条には「處々灌仏云々此女房布施夕顔付扇最簡略體也」とあり、扇は最も簡単な贈品であつたことが記さる。また文永十一年(一二七四)三月の北条実時書写『齊民要術』紙背文書の中にも、通常の贈答に扇を用いていた記事がある。また八朔贈答(八月一日に贈答を行う習慣、今の中元)では、室町殿の八朔の儀において、屏風と扇が毎年贈されることを記す史料がある。

この扇が引出物として用いられたことを知ることは出来るのは、後崇光院(一三七一~一四五六、伏見宮家第三代貞成親王、後花園天皇の父)の日記『看聞日記』の記事からで、遅くとも応永二十三年(一四一六)から扇を正月の引出物としていたことが判る。また八朔の場合は、永亨十年(一四三八)の記事に、列参した牛飼い十一人のうち初参の五歳の牛飼いには太刀を、残りの十人には扇を賜らせ、「近年八朔の例として扇を下さると記す。そして『親長卿記』の文明四年(一四七二)の一月六日には「自禁裏被下扇子」、また翌年一月十一日には「被下天扇旧院御在位之時毎年被下畢其御佳例歟」とあり、後花園天皇の御代(一四二八~六四)以来の佳例となつていることが判る。八朔に臣下に扇を賜うことは、『三代実録』貞觀十四年(八七二)に、五位以上でその座にいる者に扇を一本ずつ賜つた記事があることなどを考えれば、その歴史はかなり古いのである。

このように宮廷で用いられた扇は、少なくとも室町時代中期頃には、宮廷の絵画制作を担当する絵所預であった土佐家が調進していたことが知られる。『御湯殿の上の日記』によれば、明応三年(一四九四)正月十一日には絵所預土佐光信が新一年恒例の扇を進上している。また他の史料には、足利将軍家に対して、狩野元信や芸阿弥らの絵師が、正月の挨拶に扇を携えていることが記される。さらに海北友松

が慶長八（一六〇三）・九年の年頭に八条宮智仁親王に扇を進上、絵屋「俵屋」を主宰した宗達が後水尾天皇を中心とする宮廷と関わりが深かつたことも、宮廷において扇が贈答、引出物として重視されていたことを示唆しよう。これらの扇は、金銀の箔や泥と彩色によって、物語や草花、吉祥の図様などを描き、上流社会の社交の場に風情と雅趣をもたらす品、一つの個性的な美術品として存在したのである。人々の生活の中に風を送る道具としてごく自然に溶け込み、儀礼的にも用いられる機会の多かつた扇であるからこそ、贈答、引出物として重宝だつたのであり、その意匠に工夫がなされていたのである。

また天皇の即位に伴う大嘗祭の際に用いられる挿華は、宮中行事の饗宴の際の一種の引出物と考えられよう。宮中の饗宴は行事や儀式に伴うため、その儀式に奉仕した者の一部に対し、絹や太刀、馬、あるいは漆箱などを下賜することは少なくなかつた。そういう点からは、これらも引出物であるが、挿華は特別に大嘗祭のためにあつらえられるものである。挿華は、蓬萊山や鶴亀などを表した祝儀の調度の一つとして平安時代以降用いられた洲浜に載せて天皇に奉られるものである。中世以降の混乱で大嘗祭が中断されていたため、その再興は江戸時代半ば、桜町天皇の時代であつた。この時以降はその在り方が記録によつて知られるが、天皇の挿華は銀製とされ、松や桐、桜、菊、竹などの意匠が形造られた。そしてそれに従つて、臣下の挿華も造られ、節会の後には下賜されている。大嘗祭の挿華の伝統は明治以降も存続し、大正、昭和、そして平成に至るまで、その饗宴の出席者に下賜されている。

ここまで、近世以前における引出物の在り方の「ごく一端を紹介してみたが、慶事の折に、特別に何かをあつらえて、記念の品を贈るという行為は、当然ながら行っていたことである。それが近代、西欧の様々な生活様式や習慣を取り入れながら、諸外国とも付き合い、またそれまでの宮中の伝統的儀式も存続させてきたが、天皇において、ポンボニエールはその折衷の中で都合の良い品物でもあつた。それが多彩な意匠表現に表われ、美術品としても優れた作品に仕上がつているのである。

今回の展覧会では、（明治から平成までの）皇室御慶事のポンボニエール（多彩なデザイン）のコーナーを設け、ポンボニエールの意匠に日本文化の伝統はどうのように表わされているのか、その特徴を紹介している。

天皇の儀式に関連するものは御誕生、御着袴（しゃづ）、成年式、立太子、御結婚、大礼（御即位）、御結婚二十五年（銀婚式）を主とし、御在位の記念、海外御訪問の記念、長寿の御祝も行われている。天皇の儀式として最も重要な大礼に際しては、宮

中の伝統行事の一つとして、古くからその行事に用いられてきた特徴的な用具や雅楽に関するものが多いため、大正天皇大礼の際には、大嘗祭の際に用いられる人目籠（繪服（絹布の古名）と鹿服（布の古名）を入れる竹籠）や、神饌を盛るために柏の葉を数枚折り曲げ重ねて竹の針で綴じ、皿や筥様にした柏葉の容器。昭和天皇大礼の際には、大嘗宮の釣燈籠や威儀物のうちの鉾、雅楽の大太鼓が象られている。また、古代から神宝としても重要であった鏡を入れる鏡箱に鳳凰や鶴の文様を施したものも、天皇という存在に敬意を払つて選ばれた意匠であろうし、平安時代以来、吉祥を表す文様として好まれた鶴亀、松食い鶴、鳳凰、装束の文様である皇太子黄丹袍（おうにんぱう）の鷺鷺丸文、向鳥丸文など、いわゆる有職文様も特徴的である。また、それぞれの御方のお印（昭和天皇の竹、皇后陛下の桃、今上陛下の桀など）をデザインしたものも多い。

親王や内親王、さらに宮家に関わるものは、天皇のものに準じた意匠が多いが、雲鶴や松唐草、桐、梅花文、富士岡など、有職や吉祥に因む文様や形を取り入れたものが中心である。またお子様の御誕生や命名の折には、読書始めと鳴弦の儀に因む形や図様、また玩具の戌張子やでんでん太鼓が選ばれているのが実に愛らしい。

（多彩なデザイン）では、宮中や旧宮家の御慶事、何かの饗宴の折のものなどの由緒の明確なもの、不明確なものを持ち、形と文様の意匠の多彩さを紹介している。全体を概観して、やはり多く用いられているのは宮中の伝統と関わりのある意匠である。大嘗祭で用いられる柳箇、火爐と炭箱、装束の一品である檜扇、雅楽の兜など、大礼の儀式に関わるもの。庭園の池に浮かべた龍頭鶴首の鳳凰形の舟、牛車、蹴鞠や碁などの遊興に関わるもの。鏡箱、棚、棚に飾られる書物、文台、香炉、櫃などの公家の調度がこれ類する。さらに、吉祥を象徴する動植物に関わるもの、武士に関わるもの、庶民的なものがあるが、これらもそれぞれに日本の文化に特徴的なものが取り上げられ、めでたさ、楽しさ、繁榮の意味合いの強いものである。また、ポンボニエール自体が西洋のものであるわりには西洋的なデザインは比較的少ないのも、日本皇室のポンボニエールの在り方の特徴であろう。大正～昭和初期にかけては、形や文様の意匠、技巧にも凝った作品が多いが、そうした中で地球儀といった意匠のものも生まれ得たと考えられる。基本的な容器としての形にも、丸、楕円、馬蹄、長方形、六角形などのバリエーションに富む。それらには宮家の紋を中心に、単純ながら文様の種類、配置、大きさなど、全体のバランスが洗練されており、作品の優秀性を窺わせるものが多い。

以上のように、近代皇室以後、今日まで、皇室の御慶事の際の引出物として伝

統的に用いられるようになつたボンボニエールは、西洋の銀製菓子器でありながら、日本の文化の伝統を十分に包括した美術的な造形品と言えるのである。

さて、今回の展覧会を企画した契機となつたのは、平成七年に妃殿下が薨去され、宮家の歴史を閉じた旧秩父宮家より、國へ寄贈された美術工芸品の中に、妃殿下が整理されたボンボニエールが百五十点余含まっていたことによる。それらのボンボニエールの中には、勢津子妃殿下自身が、判る範囲での由緒を書き留められた小さな紙が納入され、おそらくは酸化して黒ずんでいたであろう品々に輝きを甦らせ、一個一個を丁寧に包んで保存させていた。この御成果を眼のあたりにした当館では、ボンボニエールという存在に接することのない多くの方々に、皇室に特徴的であり、多彩で可愛らしいこれらの品々を多くの方々に紹介すると共に、『銀のボンボニエール』と題された御著書まで遺されている妃殿下のボンボニエールに対する想いに感じ入つての企画でもあつた。

旧秩父宮家は、大正天皇の次男として明治三十五年六月二十五日に御誕生になられた雍仁親王が、成年式を迎えた大正十一年六月二十五日に創立された宮家で、勢津子妃殿下とは昭和三年九月二十八日に御結婚。妃殿下は旧会津藩主・松平家の御出身、最初の平民出身の皇族妃となられた方であつた。御著書『銀のボンボニエール』の題名となつたボンボニエールとは、鼓形に若松と星をあしらつたもの（出品番号26）である。これは、昭和三年七月十二日、御婚儀の決まつたお二人と、勢津子妃殿下の実父・松平恒男夫妻や宮内大臣ら、ごく身近な人達のみによる皇太后（貞明皇后）御主催の内宴の折、宴の後、皇太后自らお二人に手渡されたものであつた。その時の様子と思ひは御著書にも記されている。

「……私が皇太后さまにボンボニエールをちょうだいたしましたのは、婚儀前夜に、アメリカから帰国後初めてお召しを受けて参殿いたしましたときです。宮内大臣はじめ、大臣クラスの高官の方々もお召しになってのご内宴が催されたのですが、宴の後、宮さまと私にお手すから賜りました。皇太后さま御自らデザインあそばしたとのこと。全長六センチくらいで、鼓の形というのも珍しく、締めひもと呼ばれる調緒はローズピンク、胴の部分には宮さまのお印の若松の模様と星の模様が幾つも浮き彫りにされております。ローズ色は英國の国の色であり、星は星条旗、つまり米国を意味しているのです。英國で勉強あそばした宮さまと、米国でくらか勉強いたしました私とが、それぞれご縁ある英國と米国との親善に一生努力するようにといふ、皇太后さまの非常に深いおぼしめしが込められているのでした。……」

さらに、二個のボンボニエールうち、妃殿下のものは戦災で焼失、今残つているのは倉に納められていた殿下の分であること、このボンボニエールが慣れない皇室の生活の中で、皇太后様のお心遣いと共に、妃殿下の気持ちの励み、安らぎになつたことが記されている。

実際、このボンボニエールの箱に納められた妃殿下の書付には、皇太后陛下より二個を戴いたが、一個は焼失してしまったことが記されている。さらにその書付には、調緒のローズピンクが色褪せてしまったので作り替えてみたが、その色がとても不本意であることが記されていた。確かに当館に寄贈頂いた折に付属していた調緒は黄味を帯びた薄桃色で、総も付けられないままの状態であり、その紐の色がよほどお気に召していなことを窺わせていた。現在の調緒は、妃殿下の想いを考慮し、今回の展覧会を前に、新たに取り替えたものである。果たして、妃殿下が貞明皇后からお手渡しされた時の調緒の色と類似しているのかどうか。

その後、妃殿下の御親戚にあたられる松平保定氏のもとに、このボンボニエールと同意匠のものが存在していることが判つた。松平氏のもとにあるボンボニエールは、昭和三年七月の内宴に出席した六組の方たちのために、また別にあつらえられたもの六個のうちの一個のようである。両殿下のものと同じデザインではあるが、材質や線刻の深さなどの様子に若干の違いが見られる。それにしても、この旧秩父宮家の鼓形のボンボニエールは、貞明皇后自ら両殿下のためにデザインされた貴重なものであり、現存していても、妃殿下がお持ちであつたオリジナルのもの一個と、内宴の招待者六組に渡された六個のみなのである。

このように、多彩なボンボニエールは、制作された由来や時期によつて、本当に数個しかないものの、皇室の大きな行事の折に相当数作られるものなど、その制作の在り方や材質も多様である。わが国において、古くから慶びを分かち合い、その記念として両者が互いに大切にその出来事を引出物の品に思いを込めて持ち続けるという、在り方が、近代以降の皇室では、ボンボニエールに象徴されることとなつた。今後も、皇室御慶事の記念、その宴席の引出物として造られ続けるボンボニエールには、その度に様々な願いや想いが、愛らしく美しい意匠に込められることであろう。

太田彩（おおた・あや／当館学芸室研究員）

ボンボニエールの制作とその周辺

——明治から昭和前期にかけて——

「銀製菓子器」と金平糖

ボンボニエールという言葉をこの展覧会で初めて知つた方も多いことだろう。あるいは、「ボンボン入れ」と言い換えれば、懐かしくその言葉を聞かれた方もおられるかもしない。子供の誕生祝いや結婚式などの席に眺える洋風のテーブルウェアの本をめくると、色鮮やかなキャンデーが詰められた蓋の付いた容器（ボンボニエール）が、それぞれのセットに添えられていることがある。これらはお祝いの席を彩る、幸福の祈りが込められたお菓子である。日本でも近年では結婚式の披露宴にドライ（白、ピンク色などの砂糖がかかつたアーモンドのお菓子）などを配ることも増えているようである。ボンボニエールが皇室の御祝宴の引き出物として使われ始めた当時、テーブルウェアのひとつとして扱われていたのか、扱われていたとして、それは今まで続いたのかは今のところはつきりしていない。大正期のボンボニエールの中には、形が複雑で、何処にお菓子を入れたのだろう、あるいはいつたいこれがお菓子入れなのかと疑問を持つようなものも多い。お菓子に添える飾りのように使われていた可能性もある。容器というよりもむしろ、ミニチュア的な要素を持つものが多く、雛人形に添えられる調度や道具類が、実際に使われるものを忠実に模して作られているよう、江戸の細工の伝統を引き継ぐ側面も持つている。現在の皇室の御祝宴では、ボンボニエールは宴席には飾られることなく、白い箱に入れられて、御祝宴の出席者に記念の品として配られている。

皇室のボンボニエールの材質は、銀製がその大部分を占めているが、海外の例では銀ばかりでなく、陶磁器や他の素材も多い。日本でのボンボニエールの始まりが銀婚式（明治天皇大婚二十五年）と推測されることから、その後もごく自然に銀製のものが、伝統的に使われるようになつた一因と考えることもできる。加えて、本図録所収の太田論考にあるように、大礼の際に作られる挿華についても、天皇の挿華が銀製であること、また下賜される挿華も別に作られることも、皇室のボンボニエールが銀を中心に作られていることに関係があろう。当初より、ボンボニエールと呼ばれていたかは不明であるが、大礼記録等には「銀製菓子器」あるいは「銀製小菓子器」などの記載が見られる。一方、今回の出品数は少ないが、真鍮、アルミ、七宝、木製、竹製、漆塗のものも含まれる。漆塗のものには簡略的な技法ながら蒔絵を施したものもあり、簡素な印象は受けれるが、ひとつひとつ手作りであることを

考えれば、銀以外の異素材のものにも、かなり手間をかけられた作品が多い。ただし、銀以外の素材で、木や竹製のものが多く使われているのは、物資が不足していた先の大戦中の昭和十年代後半に集中している。

さて、こうした掌におさまる小さな、意匠の凝らされたボンボニエールを開けると、中には白い薄紙に包まれた五色の金平糖が納められている。これは昭和期も後半以降のボンボニエールに、納入されたまま保存されていてことから確認できたことで、中には日本の伝統的な干菓子が入れられた例もあつた（19頁）。明治、大正期のボンボニエールにはどんなお菓子が使われていたのか、記録の上にもまだ見いだせず、今となつては確かめることは難しい。しかし、ボンボニエールの中には複雑な形があり、それらのお菓子が入る部分が小さく限られていることを考えれば、金平糖のように、小粒のお菓子が最適のように思われる。銀に、白や淡い赤、黄、緑、橙色の金平糖を取り合わせる色合いも、宮中の装束や調度などの色目にも似て、新しく取り入れた慣わしにも伝統を感じさせる。考えてみれば、金平糖もボルトガルからやつてきたお菓子であった。ポルトガル語で‘confeito’と書くそのお菓子は、木の実や果物に砂糖をかけた、丸みのある砂糖菓子である。日本の金平糖はこれと違つてザラメ糖を中心にして煮詰めた砂糖をまわりにかけていく、とげとげの角が付いた独特の小さな星形にする。かける砂糖の量を調節すれば、その大きさは自由に変えることができる。とすると、複雑な形のボンボニエールには、ごくごく小さな金平糖が入れられていたのかもしれない。外から新しいものを取り入れ、消化して別のかたちに変えていく日本文化の特質がボンボニエールと金平糖の取り合わせにも垣間見える。

ボンボニエールの構造

ボンボニエールの容器としての構造は実に様々である。被せ蓋造り、印籠蓋造り、口縁に覆輪が着けられたものなど伝統的な箱の蓋の形式で分けられるもの。ピルケースのような蝶番蓋、扇形や太鼓形の例のように蓋が横にスライドするもの、引き出し式、蓋がネジ式のもの（出品番号68）、引き戸（出品番号82）、また鳥籠な（出品番号71、73、74）はその底を回すと底板がはずれるなどの工夫が凝らされている。また、ボンボニエールの制作技術の違いを見るには、形をどう成形しているのか鍛造なのか鋳物なのかプレスなのか、あるいはそれらを併用しているのか、また部材の接合箇所がどこにあるかが目安となる。例えば明治天皇大婚二十五年のボンボニエール（出品番号1）は、一枚の銀の板から絞りの技法で蓋と身をそれぞれ

打ち出している。蓋の側面には祝典の行われた日付「明治二十七年三月九日」を線刻し、蓋の表面には鶴と岩上の亀の文様が片切り鑿によって彫られており、筆による筆致の効果を彫金の線刻で表している。当時、これが製作された数としては千数百個を超えるものであつたことが推測されるが、すべて手作りされたことは確かなことなのである。

刻印について

こうしたポンボニエールは、当時、どれくらいの数が、どのように作られたのだろうか。おそらく現在に至るまで、三〇〇種を越える作品が皇室とその周辺で制作されたと推測している。しかし、他所に配られる引き出物という性格から、その全容をとらえることは困難である。それぞれのポンボニエールには、製作された御慶事、御祝宴の由緒等は、ほとんど詳しくは記録がつけられていない。逆に御慶事に關係の記録にも、ポンボニエールの形状やデザイン考案の経緯、制作者等が明記されているものは今のところほとんど見い出せていない。やはり最初の手がかりとなつたのは、当館のコレクションを旧蔵しておられた故秩父宮妃殿下が御自身で整理され、そのポンボニエールが配られた御慶事の由緒をお書きになつた小さな書き付けであつた。それでも由緒を明確にできないものが多くある中、調査を進めるうちに、次第に年代的な違いが見えてくると同時に、銀製のポンボニエールの底裏等に施された刻印に注意をひかれた。これらの刻印は御祝宴の由緒、日付をそのまま示すもの、そして銀製であることを示す、いわゆるホールマーク的なものと、制作者あるいは制作を取り仕切つた会社、店舗などを示すものの三種がある。これらはまだ詳細は不明な点も多いが、明治から昭和前期のポンボニエールに打たれた刻印を、数多くある中から取り上げて分類してみた。刻印3種類のうち、「銀製」あるいは「純銀」等の刻印(刻印A)と制作者等(刻印B)を示していると考えられるものは、明治後期から昭和前期にかけてのポンボニエールを中心に、表記した(別表)。

この表の中には推測の領域を出ない記載もあり、同じ名称を持つものは同じ項目に分類しているが、同名でも異なる制作者の可能性もある。また、刻印の中にも、押された部分の断面の形状が、凸形のものと凹形のものと2種あり、混在している。前者の方が年代的に古いものに多い。この展覧会を機に、新たに情報が得られることが期待している。

刻印のうち、三越や天賞堂、宮本商行のように現在も存在する会社も含まれているが、会社側の記録の多くが先の大戦で失われたこともあって、制作の由緒を明らかにする直接の情報にはならなかつたが、明治期から昭和前期にかけての金工品の制作業者、あるいは美術工芸品を取り扱う会社等の諸相を示すものとして興味深い。それぞれの御慶事によつてつくられるポンボニエールの数は、千を越えるものから數十個、あるいは十数個にすぎないものと、その数には大きな差があり、ポンボニエールの構造や制作技法は制作数によつても選択されたであろう。大礼の時にようによつてポンボニエールの数が多く必要とされる場合、複数の業者が分けて制作をとりまとめていたことが、同じ意匠のポンボニエールでもそれぞれの刻印が異なることから明らかになつた。昭和前期頃までの、宮内省からのこうした量産的な作品の制作依頼は職人に直接おりることはなく、店舗や会社等がとりまとめ、製作技法によつてそれぞれの技術を得意とする職人に振り分けることが多かつたようである。

制作者あるいは制作を取り仕切つた会社等の刻印も、全てが明らかにされた訳ではないが、ここに幾つか例をあげてみる。ひとつには「サムライ商会」がある(出品番号24-1)。サムライ商会は横浜に拠点を持ち、海外への輸出を中心にして、美術工芸品を扱つていた会社で、大正十二年(一九二三)の関東大震災前まで存続していた。「重光造」刻印を持つポンボニエール(出品番号110)も一例のみであるが、これは当館で過去にも展覧会で紹介している作品、当館所蔵「銀製牡丹浮彫花瓶」平田重光作の刻印(明治美術再見I—明治美術会と金工協会の時代・一九九五年)と細部は異なるものの、同じ字体の刻印で、平田重光あるいは平田の工房で制作されたことがわかる。平田重光(?)大正十五年没)は鍛金を業とし、明治の内国勧業博覧会にも出品、受賞しており、当館の作品も明治四十年(一九〇七)以前には宮内省に納められていたことが確認されている。このポンボニエールは大正十代以降のものと推測されることから、あるいはその息子、二代重光によるものかもしれない。

金属の純度表示、制作者名などの刻印が、貨幣や作家の名前が刻まれる作品ではなく、商品的なものに入れられるようになるのは、明治二十五年(一八九二)の天賞堂の広告にその始まりと思われる記載が見える。天賞堂は明治十二年、江沢金五郎によつて創業された。その最初は篆刻業つまり印判店として銀座に店を構えるものであつた。篆刻を啓蒙する広告を出して、特に宣伝には力を入れ、カタログを制作して頒布し、定価販売など、当時としては新しい商法を次々と打ち出してその事業を拡大した。明治二十一年から輸入時計の販売を始めたが、その品質の保証のために商品番号、金位や「天賞堂」等の刻印を入れ始めたのが明治二十五年頃のことであった。『東京日日新聞』(明治二十五年十二月二十九日)の広告にはこのほか「制作を證明する事」として「…殊に我國に於て著名

なる工匠家或いは彫刻家に嘱附して製作せしめたる巧妙の物品には前件刻印の外に其製作人の銘を打たしむべし……とある。天賞堂がもともと扱っていた篆刻など伝統的な印判が、これら刻印にもつながる。この二年後の大婚二十五年の祝典に際しては多くの銀製品が献上され、天賞堂にも「純銀製蓬萊置物」などの調達依頼があつた。天賞堂が、当時の著名な美術工芸作家に意匠を依頼し、実際に制作する職人との仲介の役割を果たしていたのである。

明治以降、ボンボニエールが銀製品を中心にして製作されてきたために、それらは金工品制作の変遷も伝えている。工芸の各分野で明治維新後の社会変化の影響を一番大きく受けたのは金工の分野であった。金工職人の多くが携わっていたのは刀剣の飾り金具であり、武家の文化が消滅するとともにその活躍の場を失った。彼らが代わって途を見いだしたのは明治政府が振興した輸出向けの置物、壺、皿、花瓶などの調度品の制作であった。江戸期以来の高度な技術と写実的な表現を引き継ぐ彼らは、こうした作品の制作に対応していくことになる。刀装具を制作していた彼らの中でも、鍔つまり鉄を彫る職人と、目貫、小柄など、金、銀、銅を扱う職人は用いる工具が異なり、鉄の加工を得意とする流れは金型の制作を中心に、表面の加飾を得意とする流れは、彫金の「上彫り」を中心に分かれていたと考えられる。ボンボニエールも十個以上の個数になると製作工程上、何らかの型は存在したと考えられる。明治期以降のボンボニエールのように量産的な作品において、今一段階で技法的な変遷を詳しく語ることはできないが、明治から昭和までのものが年代的に揃っていること、ある程度、大量生産的に作られた性格のものであることから、工業機械の導入も含めて金工技術の変化を考える上で貴重な資料となつてゐる。いずれにしても、確かな技術を持った職人層の厚みが、意匠の凝らされた、構造的に複雑なボンボニエールの制作を支えていたのである。

このように、皇室とその周辺の御慶事の度につくられてきた明治から昭和にかけてのボンボニエールの作品の数々は、皇室独自の美術工芸の意匠美の一端を示すものであるとともに、表舞台にはあまり現れることのない、近代日本の金工の諸相を伝えている。

五味聖（ごみ・ひかる／当館学芸室研究員）

謝辞

この展覧会を開催するにあたり、以下の方々に資料提供、御教示を頂きました。記して感謝いたします。（敬称略・順不同）

松平保定、会津武家屋敷 襲田健、（株）天賞堂 伊藤広司 三田清瑞 江田康雄、（株）宮本商行 玉井義正、岩壁義光

刻印A	刻印B	制作者・会社・店舗等
純銀	鈴木謹製	
純銀	稻葉謹製	
純銀		
純銀	☆	山崎商店
純銀		サムライ商会(横浜)
純銀	服部製	服部時計店(銀座)
なし	村松製	村松時計店(銀座)
純銀	大勝堂	大勝堂(銀座)
純銀		
純銀	高島屋	
純銀	重光造	平田重光(鍛金作家)
銀製	三宅製	
純銀	なし	
銀製	なし	

* 今回出品していないものについても刻印データのみ記載した。

刻印A	刻印B	制作者・会社・店舗等
純銀	天賞堂	天賞堂(銀座)
なし	TENSHODO TOKYO	天賞堂(銀座)
純銀	三越製・三越	三越
純銀	越	三越
なし	三越製	三越
純銀	宮本造	宮本商行(銀座)
純銀	宮本謹製	
純銀	宮本	
純銀		小林時計店(銀座)
純銀	小林	
純銀	新城	
なし	新城製	
純銀	よ製	
純銀		安藤七宝店
純銀	鈴木製	

出品目録

出品番号	作品名	制作来歴	材質	刻印	法量
1-1	楕円形鶴亀文ボンボ二三ール	明治二十七年(一八九四)明治天皇大婚二十五年祝典	銀製	「明治二十七年三月九日」 5・7×4・6	高1・6
1-2	丸形鶴亀文ボンボ二三ール	明治二十七年(一八九四)明治天皇大婚二十五年祝典	銀製	「明治二十七年三月九日」 径5・2	高1・8
2-1	入目籠形ボンボ二三ール	大正四年(一九一五)大正大礼大饗第二日	銀製	径6・6	高2・9
2-2	柏葉宮形ボンボ二三ール	大正四年(一九一五)大正大礼大饗第三日	銀製	6・1×6・05	高2・9
2-3	八稜鏡形鳳凰文ボンボ二三ール	大正四年(一九一五)大正大礼	銀製	径6・4	高2・5
3-1	双鶴置物形ボンボ二三ール	大正十四年(一九二五年六月三十日)大正天皇大婚二十五年祝典	銀製	「村松製」	台5・5×6・3 総高8・4
3-2	菊花形鳳凰文ボンボ二三ール	大正十四(一九二五)五月十日大正天皇大婚二十五年祝典	銀製	「純銀」「宮本造」	径5・9 高3・1
4	六花形鶴文ボンボ二三ール	大正五年(一九一六)十一月二十九日立太子(昭和天皇)	銀製	「純銀」「小林製」	6・0×6・4 高2・2
5-1	八稜鏡形鶴文ボンボ二三ール	大正八年(一九一九)五月十日東宮御成年式	銀製	「純銀」「小林製」	6・3×6・2 高2・5
5-2	丸形松喰鶴文ボンボ二三ール	大正八年(一九一九)五月十三日東宮御成年式(霞関離宮にて午餐)	銀製	「純銀」「小林製」	径5・2 高2・0
6-1	箱形波文ボンボ二三ール	大正十年(一九二二)九月十五日東宮御朝の節午餐	銀製	「純銀」「小林製」	5・5×4・25 高2・3
6-2	箱形波文ボンボ二三ール	大正十年(一九二二)九月十五日東宮御帰朝の節午餐	銀製	「純銀」「服部製」	5・2×3・9 高1・95
7-1	六角松鶴文ボンボ二三ール	大正十三年(一九二四)五月三十一日東宮御結婚	木製(紫檀)		4・6×5・3 高3・0
7-2	卵形亀甲文ボンボ二三ール	大正十三年(一九二四)六月七日東宮御結婚	銀製	「純銀」「服部製」	4・8×6・2 高4・0
8-1	雅樂大太鼓形ボンボ二三ール	昭和三年(一九二八)十一月十七日昭和大礼大饗第二日夜宴	銀製	「純銀」「服部製」	4・45×4・4 高11・1
8-2	釣燈籠形ボンボ二三ール	昭和三年(一九二八)十一月十七日昭和大礼大饗第二日夜宴	銀製	「純銀」「☆」	5・4×5・4 高4・7
8-3	威儀桿形ボンボ二三ール	昭和三年(一九二八)昭和大礼	銀製、錦		3・2×3・2 高17・3
9-1	重ね箱形松鶴文ボンボ二三ール	昭和二十四年(一九四九)二月二十六日昭和天皇御結婚二十五年(銀婚式)御祝宴	銀製	「純銀」	4・9×4・3 高4・2
9-2	短冊形朝顔松枝文ボンボ二三ール	昭和二十四年(一九四九)二月二十六日昭和天皇御結婚二十五年(銀婚式)御祝宴	銀製	「純銀」「小林製」「木の葉形印」	8・5×3・3 高1・3
10	丸形竹梅文ボンボ二三ール	昭和四十九年(一九七四)一月二十六日昭和天皇金婚式御内宴	銀製		径5・4 高3・2
11-1	丸形竹文ボンボ二三ール	昭和四十六年(一九七一)三月昭和天皇古希祝賀	銀製	「銀製」	径6・0 高2・3
11-2	丸形桃枝文ボンボ二三ール	昭和四十八年(一九七三)三月九日皇太后陛下古希祝賀御内宴	銀製	「銀製」	径6・0 高2・2
11-3	丸形竹に鳩文ボンボ二三ール	昭和五十六年(一九八一)昭和天皇八十賀	銀製	「銀製」	径6・0 高3・2
11-4	丸形桃文ボンボ二三ール	昭和五十八年(一九八三)三月六日皇太后陛下八十賀	銀製	「銀製」	径6・0 高3・2
12-1	丸形西欧地図入りボンボ二三ール	昭和四十六年(一九七一)昭和天皇御訪欧記念	銀製	「銀製」	径6・0 高4・7
12-2	丸形北米地図入りボンボ二三ール	昭和五十年(一九七五)昭和天皇御訪米記念	銀製	「銀製」	径5・5 高3・2
13-1	御紋丸形ボンボ二三ール	昭和五十一年(一九七六)昭和天皇御在位五十年	銀製	径6・0 高3・3	
13-2	御紋丸形ボンボ二三ール	昭和五十一年(一九七六)昭和天皇御在位五十年	真鍮製	径6・0 高3・3	

13 3	丸形菊枝文ボンボニエール	昭和六十一年(一九八六)昭和天皇御在位六十年	銀製	径6・0 高3・4
14	犬張子形ボンボニエール	昭和八年(一九三三)天皇陛下御誕生御祝宴	銀製	「三越製」
15 1 2	丸形鶯鷦文ボンボニエール	昭和二十七年(一九五二)十一月一日立太子(天皇陛下)菊花親睦会御昼餐	銀製	「純銀」
16 1	丸形鶯鷦文ボンボニエール	昭和三十四年(一九五九)四月十三日皇太子殿下(天皇陛下)御結婚御祝宴	銀製	「銀製」
16 2	菊花形双鶴付ボンボニエール	昭和三十四年(一九五九)四月三日皇太子殿下(天皇陛下)御結婚御内宴	銀製	「純銀」
17	丸形榮印桜文ボンボニエール	昭和五十九年(一九八四)四月十日皇太子同妃兩殿下(天皇皇后兩陛下)御結婚二十五年(銀婚式)	銀製	「銀製」
18 1	丸形鳳凰文ボンボニエール	平成三年(一九九〇)十一月御即位	銀製	径6・0 高3・4
18 2	丸形花枝文ボンボニエール	平成三年(一九九〇)十二月三日京都御所茶会	真鍮製	径6・0 高4・0
19	丸形菊葉文ボンボニエール	平成十一年(一九九九)十一月御即位十年	銀製	「銀製」
20 1	碁盤形ボンボニエール	昭和三十九年(一九六四)徳仁親王殿下(皇太子殿下)御着袴	銀製	4・35×5・0 高3・0
20 2	扇形梅文ボンボニエール	昭和四十五年(一九七〇)十月十八日文仁親王殿下(秋篠宮殿下)御着袴	銀製	5・7×6・4 高1・4
20 3	花形羊草文ボンボニエール	昭和四十八年(一九七三)十二月清子内親王殿下(紀宮殿下)御着袴	銀製	径5・7 高2・15
21	丸形鶯鷦文ボンボニエール	平成三年(一九九一)立太子(皇太子殿下)	銀製	径6・8 高2・65
22 1	丸形松鶴文ボンボニエール	平成五年(一九九三)皇太子殿下御結婚	銀製	径5・8 高2・3
22 2	丸形鶯鷦文ボンボニエール	平成五年(一九九三)皇太子殿下御結婚	銀製	径5・8 高2・4
23	丸形梅檜扇菖蒲文ボンボニエール	平成二年(一九九〇)文仁親王殿下(秋篠宮殿下)御結婚	銀製	「銀製」
24 1	箱形雲鶴文ボンボニエール	大正十一年(一九二二)十二月五日雍仁親王(秩父宮)御成年式	銀製	「純銀サクライ*」(扇形)(S) 6・3×4・45 高3・1
24 2	箱形松唐草文ボンボニエール	大正十一年(一九二二)六月雍仁親王(秩父宮)御成年式御内宴	銀製	「三越製」純銀 5・15×3・95 高1・9
24 3	箱形松唐草文ボンボニエール	大正十一年(一九二二)六月雍仁親王(秩父宮)御成年式御内宴	銀製	「三越製」純銀 5・65×4・25 高2・2
25	丸形鳳凰文ボンボニエール	旧秩父宮家紋付	銀製	径6・1 高3・6
26	鼓形若松星文ボンボニエール	昭和三年(一九二八)秩父宮御婚儀前御内宴	銀製	径4・25 長5・8
27 1	箱形梅花散文ボンボニエール	大正十四年(一九二五)一月十三日高松宮御成年式	銀製	5・2×3・9 高2・0
27 2	丸形梅花散文ボンボニエール	大正十四年(一九二五)一月十三日高松宮御成年式	銀製	「三越製」純銀 径6・4 高2・6
28	洲浜形松波文ボンボニエール	昭和五年(一九三〇)高松宮御結婚	銀製	「昭和五季春」 3・95×6・2 高1・8
29	入隅箱形鳥居杉木立文ボンボニエール	昭和十年(一九三五)十二月三日三笠宮殿下御成年式	銀製	「純銀三越」 5・6×4・6 高1・9
30 1	八花形桐文ボンボニエール	昭和十六年(一九四二)十一月二日三笠宮殿下御結婚御晚餐	アルミ	径5・9 高2・0
31	帙入和書形ボンボニエール	大正十四年(一九二五)十二月十二日三笠宮殿下御結婚御晚餐	陶器、色絵、銀彩	6・8×9・4 高3・0
32	梅花形ボンボニエール	昭和十六年(一九四二)十二月七日三笠宮殿下御結婚御晚餐	銀製	「三越製」純銀 5・5×4・2 高2・2
33	卷物形ボンボニエール	昭和四年(一九二九)十二月六日照宮成子内親王御着袴	銀製	〔昭和四年十二月六日〕 径5・1 高2・7
34	丸形菊花文ボンボニエール	昭和四年(一九二九)十月六日孝宮和子内親王御命名	銀製	径2・6 高7・7
		〔孝宮御着袴記念〕		径6・0 高2・8

35	箱形弓に巻物文ボンボニエール	昭和六年(一九三一)三月十九日順宮厚子内親王御命名	銀製	「*」「純銀」	5・5×4・55	高1・5												
36	でんでん太鼓形ボンボニエール	昭和十年(一九三五)十二月五日正仁親王殿下(當陸宮殿下)御誕生御内宴	銀製	「純銀」「三越」	径4・6	全長9・9												
37	柳箱形ボンボニエール	明治四十一年(一九〇八)四月竹田宮家御結婚	銀製	5・1×5・15	高2・6													
38	炭箱形ボンボニエール		銀製	「純銀三越」	6・2×4・7	高5・6												
39	六角火爐形ボンボニエール		銀製	「純銀」「三越」	5・2×5・8	高3・65												
40	重扇形松竹梅文ボンボニエール	旧伏見宮家紋付	銀製	3・95×7・9	高2・0													
41	檜扇形ボンボニエール	旧閑院宮家紋付	銀製	「銀製」「天賞堂」	5・8×4・3	高1・2												
42	檜扇形藤桜文ボンボニエール	旧竹田宮家紋付	銀製	「銀製」「宮本造」	9・8×4・3	高1・2												
43	重扇形松竹梅文ボンボニエール		銀製	「銀製」	11・2×6・8	高1・4												
44	舞楽兜形ボンボニエール		銀製	「銀製」「宮本」	7・4×6・3	高5・1												
45	舞楽兜形ボンボニエール	大正十五年(一九二六)	銀製	「三越製」	6・3×6・3	高4・9												
46	鶴首船形ボンボニエール		銀製	「純銀」「三越」	3・7×9・5	高4・7												
47	御所車形ボンボニエール		銀製	8・65×4・5	高5・75													
48	蹴鞠形ボンボニエール		銀製	「鞠4・4×4・9」 高4・4 総高7・5	高3・0													
49	双六盤形ボンボニエール		銀製	4・9×3・2	高3・1													
50	碁盤形ボンボニエール	大正八年(一九一九)十二月一日崇仁親王殿下(三笠宮殿下)御着袴	銀製	5・25×4・7	高3・1													
51	八稜鏡形梅文ボンボニエール	旧北白川宮家紋付	銀製	5・0 高1・9 総高3・1														
52	八稜鏡形ボンボニエール		銀製	「純銀」「小林製」 径5・1 高2・1														
53	柄鏡箱形すみれ文ボンボニエール		銀製	8・1×5・8 高1・45														
54	帙入和書形ボンボニエール		銀製	「純銀」「小林」 8・8×3・8 高2・0														
55	飾棚形ボンボニエール		銀製	「純銀」「天賞堂」 5・6×3・8 高2・0														
56	文台硯箱形ボンボニエール		銀製	「三越製」「純銀」 3・4×7・15 高5・4														
57	香炉形ボンボニエール	大正十三年(一九二四)十二月二十日米国大使との午餐	銀製	3・6×7・05 高2・4														
58	桶形ボンボニエール		銀製	径5・4 高5・6														
59	香炉形ボンボニエール		銀製	口径2・7 高9・0														
60	糸目丸櫃形ボンボニエール		銀製	径4・9 高5・7														
61	丸櫃形松鶴文ボンボニエール		銀製	「純銀」「宮本造」 4・5×4・5 高5・4														
62	菊鉢植形ボンボニエール		銀製	4・2×4・75 高10・4														
63	竹筒形ボンボニエール		銀製	径4・1 高5・3														
64	竹形ボンボニエール	昭和九年(一九三四)七月竹田宮恒徳王御結婚	銀製	「純銀」「宮本造」 6・5×3・15 高1・9														
65	竹形ボンボニエール		銀製	「純銀」「鈴木製」 口径5・0 高2・1														

66	桃形ボンボニエール	大正十四年（一九二五）五月十四日秩父宮英國留学につき御送別	銀製	5・3×4・7	高4・1	
67	桃形ボンボニエール	旧北白川家紋付	銀製、葉と枝・着色「純銀」	6・3×3・2	高4・05	
68	瓢形ボンボニエール	うさぎ置物形ボンボニエール	銀製	4・7×5・5	高5・6	
69	親子亀置物形ボンボニエール	旧朝香宮家紋付	銀製	6・8×4・8	高6・5	
70	鷹置物形ボンボニエール	諫鼓形ボンボニエール	銀製	台径5・2 高7・9		
71	72	鳥籠形ボンボニエール	大正十年（一九二二）十二月七日フランス新任大使ポール・クローデル氏との午餐	銀製	台脚4・2×4・2 高9・55	
73	籠に鶏形ボンボニエール	大正十三年（一九二四）十一月二十七日タイ王国皇族ラージヤチボク氏との午餐	銀製	径5・2 高8・3		
74	鳥籠形ボンボニエール	大正十三年（一九二四）五月二十九日ウッズ米国大使帰国につき午餐	銀製	径4・7 高7・0		
75	鳥籠形ボンボニエール	大正十五年（一九二六）スウェーデン皇太子との午餐	銀製	5・35×4・25	高5・4	
76	鳥籠形ボンボニエール	大正十五年（一九二六）スウェーデン皇太子との午餐	銀製	径5・5 高7・5		
77	鳥籠形ボンボニエール	胃形ボンボニエール	銀製	4・95×5・4	高5・0	
78	胃形ボンボニエール	大正十五年（一九二六）九月十三日スウェーデン皇太子との午餐	銀製	6・0×6・9	高4・8	
79	折紙兜形ボンボニエール	印籠形ボンボニエール	銀製	3・1×7・4	高5・0	
80	鍔形ボンボニエール	駕籠形ボンボニエール	銀製	5・8×4・8	高1・5	
81	提灯形ボンボニエール	能太鼓形ボンボニエール	銀製	6・4×4・1×1・35		
82	太鼓形ボンボニエール	太鼓形ボンボニエール	銀製	全長11・6	高4・4	
83	軍配形菊桐文ボンボニエール	軍配形菊桐文ボンボニエール	銀製	徑5・2 高6・85		
84	85	团扇形萩流水文ボンボニエール	銀製	5・3×4・8	高3・6	
86	和船形ボンボニエール	和船形ボンボニエール	銀製	4・3×4・2	高7・1	
87	宝船形ボンボニエール	昭和四年（一九二九）五月九日英國グロスター公との午餐	銀製	6・4×3・6	高1・9	
88	儀礼帽形ボンボニエール	高松宮御外遊御記念	銀製	6・05×3・7	高1・75	
89	鳩に地球形ボンボニエール	昭和六年（一九三一）六月高松宮（貞明皇后より）	銀製	8・6×3・5	高8・2	
90	洋書形ボンボニエール	地球儀形ボンボニエール	銀製	3・1×9・2	高6・9	
91	紋章付橜円形ボンボニエール	昭和五年（一九三〇）五月十六日	銀製、珊瑚	6・3×4・5	高6・0	
92	紋章付橜円形ボンボニエール	大正十一年（一九三二）英國ウエーレズ公来日	銀製	径5・7 高11・0		
93	94	紋章付橜円形ボンボニエール	大正九年（一九二〇）ルーマニア皇太子来日	銀製	6・9×4・9	高3・2
95	馬蹄形松巴文ボンボニエール	旧竹田宮家紋付	銀製	7・0×5・1	高2・1	
96	馬蹄形松巴文ボンボニエール	6・6×4・8	6・6×4・8	6・05×5・6	高1・8	

97	六花形菊に勾玉文ボンボニエール	旧北白川宮家紋付	銀製	「純銀」「鈴木謹製」	径5・75	高2・5
98	重ね箱形松鶴文ボンボニエール	明治四十三年(一九一〇)朝香宮鳩彦王御結婚	銀製	4・9×4・2	高4・1	
99	箱形燕文ボンボニエール	昭和九年(一九三四)三月一八日竹田宮家禮子女王御送別	銀製	4・8×3・8	高2・4	
100	丸甲形松喰鶴文ボンボニエール	昭和九年(一九三四)三月一八日竹田宮家禮子女王御送別	銀製	6・65×4・35	高1・7	
101	丸隅箱形木目模様ボンボニエール	昭和九年(一九三四)三月一八日竹田宮家禮子女王御送別	銀製	6・3×4・5	高2・5	
102	重ね箱形ボンボニエール	昭和九年(一九三四)三月一八日竹田宮家禮子女王御送別	銀製	4・7×4・05	高5・0	
103	六角形松鶴文ボンボニエール	旧朝香宮家紋付	銀製	6・3×5・4	高2・3	
104	台付文庫形ボンボニエール	旧朝香宮家紋付	銀製	6・0×5・05	高2・5	
105	文箱形唐草文ボンボニエール	丸香合形梅唐草文ボンボニエール	木製、漆塗、蒔絵	6・7×3・5	高2・4	
106	文箱形唐草文ボンボニエール	丸香合形梅唐草文ボンボニエール	木製、漆塗、蒔絵	6・65×3・0	高2・35	
107	丸形梅枝文ボンボニエール	昭和十八年(一九四三)十二月六日東久邇宮盛厚王成子内親王御結婚	竹、摺漆、銀色蒔絵	径5・6	高2・3	
108	箱形松梅文ボンボニエール	昭和十八年(一九四三)十二月六日東久邇宮盛厚王成子内親王御結婚	紙胎、黒漆塗、蒔絵	7・4×6・1	高3・3	
109	紋入丸形ボンボニエール	旧有栖川宮家紋付	銀製、七宝	「小林製」(木の葉形印)径4・5	高2・4	
110	御紋丸容器形ボンボニエール	馬蹄形ボンボニエール	銀製	〔重光*〕「純銀」	径5・0	
111	台付箱形桐文ボンボニエール	昭和三年(一九二八)四月二十八日	銀製	〔純銀本製〕昭和三年四月二十八日	6・65×4・7	
112	箱形ボンボニエール	東伏見家及び亀井家紋付	銀製	3・6×5・5	高2・7	
113	扇形ボンボニエール	伏見家及び柳沢家紋付	銀製	5・1×4・6	高2・15	
114	重ね箱形梅文ボンボニエール	重ね箱形梅文ボンボニエール	銀製	〔純銀上製〕	3・6×7・1	
115	食籠形ボンボニエール	卵形弓に菊文ボンボニエール	銀製	〔銀製〕F・T・B*	高2・85	
116	唐櫃形桐鳳凰文ボンボニエール	旧北白川宮家紋付	銀製	6・4×5・4	高2・4	
117	六角形岩に杜若文ボンボニエール	唐櫃形桐鳳凰文ボンボニエール	銀製	〔純銀〕「新城」	6・4×5・4	
118	卵形弓に菊文ボンボニエール	六角形岩に杜若文ボンボニエール	銀製	〔純銀〕「*」(印)	6・0×4・5	
119	唐櫃形桐鳳凰文ボンボニエール	唐櫃形桐鳳凰文ボンボニエール	銀製	TENSHODO TOKYO	5・05×6・45	
			銀製	「純銀」「稻葉謹製」	5・65×6・5	

〔註記〕

- ・作品名は、形状および文様等について当館学芸室で検討を加えて定めた、整理上の仮称である。
- ・制作来歴の記載については、陛下、殿下等の尊称、敬称を天皇陛下はじめ現在の皇族方の場合に限りお付けした。
- ・明治・大正期の御慶事の名称は制作当時の歴史的呼称による。
- ・天皇陛下はじめ皇族方の場合は、制作当時の御品位のあとに()内に現在の御品位を記した。
- ・旧皇族方の場合は、制作来歴が明確な作例についてのみ、制作当時の宮家名をそのまま記した。ただし、制作来歴が不詳の場合は、宮家名の前に「旧」を付した。

よろこびの小箱——ボンボニエールの意匠美

三の丸尚蔵館展覧会図録No.21

編集 宮内庁三の丸尚蔵館
制作 印象社
翻訳 山崎由美子
発行 宮内庁
平成十二年四月二十九日発行

- ・各展覧会図録中、作品名や作者、制作年などの表記は、図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し、本ファイルを改変、再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は、書籍と同様に出典を明記してください。また、図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は、宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお、図版を営利目的の販売品や広告、また個人的な目的等で使用することはできません。

よろづ
慶びの小箱—ボンボイエールの意匠美

三の丸尚蔵館展覧会図録 No.
21

編集 宮内庁三の丸尚蔵館
制作 印象社
翻訳 山崎由美子
発行 財團法人 菊葉文化協会
平成十二年四月二十九日発行

©2000, Museum of the Imperial Collections

81	92	101	110
Pillbox-shaped Bonbonnière	Globe-shaped Bonbonnière	Rectangular Bonbonnière with Wood Grain Design	Round Bonbonnière with Imperial Crest
Silver, <i>shakudō</i> (alloy of copper and gold), and coral	Distributed in June 1931, from Empress Dowager Teimei to Prince Takamatsu	Silver	Silver
6.4 × 4.1 × 1.35	Diameter 5.7; Height 11.0	6.3 × 4.5; Height 2.5	Diameter 5.0; Height 2.7
82	93	102	111
Palanquin-shaped Bonbonnière	Bonbonnière in the Shape of a Foreign Book	Bonbonnière in the Shape of Stacked Boxes	Bonbonnière in the Shape of a Horseshoe
Silver	Distributed on May 16, 1930	Silver	Silver
Total length 11.6; Height 4.4	Silver	4.7 × 4.05; Height 5.0	5.1 × 4.6; Height 2.15
83	94	103	112
Lantern-shaped Bonbonnière	Oval Bonbonnière with Coat of Arms	Hexagonal Bonbonnière with Pine and Crane Design	Box-shaped Bonbonnière with Paulownia Design and Tray
Silver	Distributed in 1922, on the occasion of the visit to Japan by the Prince of Wales of England	With the family crest of the former princely house of Asaka-no-miya	Distributed on April 28, 1928
Diameter 5.2; Height 6.85	Silver	Silver	Silver
84	95	6.3 × 5.4; Height 2.3	6.65 × 4.7; Height 4.0
Bonbonnière in the shape of a <i>Noh</i> Drum	Oval Bonbonnière with Coat of Arms	104	113
Silver	Distributed in 1920, on the occasion of the visit to Japan by the Crown Prince of Romania	Bonbonnière in the Shape of a Stationery Box with Stand	Box-shaped Bonbonnière
5.3 × 4.8; Height 3.6	Silver	With the family crest of the former princely house of Asaka-no-miya	With Higashifushimi and Kamei family crests
85	96	Silver	Silver
Drum-shaped Bonbonnière	Horseshoe-shaped Bonbonnière with Pine and <i>Tomoe</i> (Comma-shaped) Design	6.0 × 5.05; Height 2.5	3.6 × 5.5; Height 2.5
Silver	With the family crest of the former princely house of Takeda-no-miya	105-1	114
4.3 × 4.2; Height 7.1	Silver	Letter Box-shaped Bonbonnière with Scroll Design	Fan-shaped Bonbonnière
86	97	Wood, lacquer, <i>maki-e</i> 6.7 × 3.5; Height 2.4	With Fushimi and Yanagisawa family crests
Bonbonnière in the Shape of a Military Fan, with Chrysanthemum and Paulownia Crest	Bonbonnière in the Shape of a Six-Petaled Flower with Design of Chrysanthemum and Comma-shaped Bead	105-2	115
Silver	With the family crest of the former princely house of Kitashirakawa-no-miya	Letter Box-shaped Bonbonnière with Scroll Design	Bonbonnière in the Shape of Stacked Boxes, with Plum Design
6.4 × 3.6; Height 1.9	Silver	Wood, lacquer, <i>maki-e</i> 6.65 × 3.0; Height 2.35	Silver
87	98	106	116
Bonbonnière in the Shape of a Round Fan, with Bush Clover and Flowing Water Design	Bonbonnière in the Shape of Stacked Boxes, with Crane and Pine Design	Bonbonnière in the Shape of a Round Incense Container, with Plum and Scroll Design	Bonbonnière in the Shape of a Food Container
Silver	Distributed in 1910, on the occasion of the marriage of Prince Yasuhiko (Prince Asaka)	Wood, rubbed lacquer, silver colored <i>maki-e</i> Diameter 6.8; Height 2.7	Silver
6.05 × 3.7; Height 1.75	Silver	107	117
88	99	Round Bonbonnière with Plum Design	Egg-shaped Bonbonnière with Bow and Chrysanthemum Design
Bonbonnière in the Shape of a Japanese-style Ship	Bonbonnière in the Shape of a Box, with Swallow Design	Distributed on December 6, 1943, on the occasion of the banquet celebrating the marriage of Prince Higashikuni Morihiro and Princess Shigeko	With the family crest of former princely house of Kitashirakawa
Distributed on May 9, 1929, on the occasion of a luncheon for the Duke of Gloucester of England	Silver	Bamboo, rubbed lacquer, silver colored <i>maki-e</i> Diameter 5.6; Height 2.3	Silver
Silver	4.9 × 4.2; Height 4.1	108	118
8.6 × 3.5; Height 8.2	100	Box-shaped Bonbonnière with Pine and Plum Design	Bonbonnière in the Shape of a Chinese Chest, with Design of Phoenixes and Paulownia
89	Bonbonnière in the Shape of a Tortoise Shell with Design of Cranes Carrying Pine Branches in Beaks	Distributed on December 6, 1943, to commemorate the marriage of Prince Higashikuni Morihiro and Princess Shigeko	Silver
Bonbonnière in the Shape of a Treasure Ship	Distributed on March 18, 1934, to commemorate the departure of Princess Ayako of the Takeda-no-miya family	Paper body, black lacquer, <i>maki-e</i> 7.4 × 6.1; Height 3.3	5.05 × 6.45; Height 5.0
Silver	Silver	109	119
3.1 × 9.2; Height 6.9	6.65 × 4.35; Height 1.7	Round Bonbonnière with Family Crest	Hexagonal Bonbonnière with Design of Rock and Young Iris
90	101	With the family crest of former princely house of Arisugawa-no-miya	Silver
Bonbonnière in the Shape of a Hat Worn on Formal Occasions	Bonbonnière in the Shape of a Tortoise Shell with Design of Cranes Carrying Pine Branches in Beaks	Silver, cloisonné Diameter 4.5; Height 2.4	5.65 × 6.5; Height 3.6
Silver	Distributed on March 18, 1934, to commemorate the departure of Princess Ayako of the Takeda-no-miya family		
6.3 × 4.5; Height 6.0	Silver		
91	102		
Earth-shaped Bonbonnière	Bonbonnière in the Shape of a Tortoise Shell with Design of Cranes Carrying Pine Branches in Beaks		
Distributed in commemoration of Prince Takamatsu's tour abroad	Distributed on March 18, 1934, to commemorate the departure of Princess Ayako of the Takeda-no-miya family		
Silver	Silver		
Diameter 6.1; Height 6.8	6.65 × 4.35; Height 1.7		

40		50	Bonbonnière in the Shape of a <i>Go</i> Board Distributed on December 2, 1919, on the occasion of the <i>chakko no gi</i> (donning-of-the- <i>hakama</i> ceremony) of Prince Takahito (HIH Prince Mikasa) Silver 3.95×7.9 ; Height 2.0	60	Cylindrical Bonbonnière Decorated with Fine Parallel Lines Silver Diameter 4.9; Height 5.7	71	Bonbonnière in the Shape of a Falcon Ornament Silver Diameter (base) 5.2; Height 7.9
41	Bonbonnière in the Shape of a <i>Hinoki</i> Cypress Wood Fan With family crest of the former princely house of Fushimi-no-miya Silver 5.7×6.0 ; Height 1.35	51	Bonbonnière in the Shape of an Eight-Lobed Mirror Box with Plum Design With family crest of the former princely house of Kitashirakawa-no-miya Silver Diameter 5.0; Height 1.9; Total height 3.1	61	Cylindrical Bonbonnière with Pine and Crane Design Silver 4.5×4.5 ; Height 5.4	72	Bonbonnière in the Shape of a Hand Drum Silver Pedestal base 4.2×4.2 ; Height 9.55
42	Bonbonnière in the Shape of a <i>Hinoki</i> Cypress Wood Fan with Design of Wisteria and Cherry Blossoms With family crest of the former princely house of Takeda-no-miya Silver 9.8×4.3 ; Height 1.2	52	Bonbonnière in the Shape of an Eight-Lobed Mirror Box Silver Diameter 5.1; Height 2.1	62	Bonbonnière in the Shape of a Potted Chrysanthemum Silver 4.2×4.75 ; Height 10.4	73	Bonbonnière in the Shape of a Bird Cage Distributed on December 7, 1921, on the occasion of a luncheon for Paul Claudel, the new French ambassador Silver Diameter 5.2; Height 8.3
43	Bonbonnière in the Shape of Overlade Fans with Design of Pinecone, Plum, and Bamboo Silver 11.2×6.8 ; Height 1.4	53	Bonbonnière in the Shape of a Box for a Mirror with Handle, with Design of Violets Silver 8.1×5.8 ; Height 1.45	63	Bamboo-shaped Bonbonnière Silver Diameter 4.1; Height 5.3	74	Bonbonnière in the Shape of a Chicken Cage Distributed on November 27, 1924, on the occasion of a luncheon for Prince Prajadhipok of Siam Silver Diameter 4.7; Height 7.0
44	Bonbonnière in the Shape of a Headpiece Worn in a <i>Bugaku</i> (Court Dance) Performance Silver 7.4×6.3 ; Height 5.1	54	Bonbonnière in the Shape of a Book with Protective Cover Silver 5.6×3.8 ; Height 2.0	64	Bamboo-shaped Bonbonnière Distributed in July 1934, on the occasion of the marriage of Prince Tsuneyoshi (Prince Takeda) Silver 6.5×3.15 ; Height 1.9	75	Bonbonnière in the Shape of a Bird Cage Distributed on May 29, 1924, on the occasion of a luncheon commemorating the departure from Japan of Ambassador Woods of the United States Silver 5.35×4.25 ; Height 5.4
45	Bonbonnière in the Shape of a Headpiece Worn in a <i>Bugaku</i> (Court Dance) Performance Distributed in 1926 Silver 6.3×6.3 ; Height 4.9	55	Bonbonnière in the Shape of an Ornamental Shelf Silver 3.4×7.15 ; Height 5.4	65	Bamboo-shaped Bonbonnière Diameter (opening) 5.0; Height 2.1	76	Bonbonnière in the Shape of a Bird Cage Distributed in 1926, on the occasion of a luncheon for the Crown Prince of Sweden Silver Diameter 5.5; Height 7.5
46	Bonbonnière in the Shape of a Bird-Shaped Ship Silver 3.7×9.5 ; Height 4.7	56	Bonbonnière in the Shape of a Writing Desk and Inkstone Case Silver 3.6×7.05 ; Height 2.4	66	Peach-shaped Bonbonnière Distributed on May 14, 1925, to commemorate the departure of Prince Chichibu to study in England Silver 5.3×4.7 ; Height 4.1	77	Bonbonnière in the Shape of a Bird Cage Distributed on September 13, 1926, on the occasion of a luncheon for the Crown Prince of Sweden Silver 4.95×5.4 ; Height 5.0
47	Bonbonnière in the Shape of a Court Carriage Silver 8.65×4.5 ; Height 5.75	57	Bonbonnière in the Shape of an Incense Burner Silver Diameter 5.4; Height 5.6	67	Peach-shaped Bonbonnière With family crest of the former princely house of Kitashirakawa-no-miya Silver, colored leaf and branch 6.3×3.2 ; Height 4.05	78	Helmet-shaped Bonbonnière Distributed on September 13, 1926, on the occasion of a luncheon for the Crown Prince of Sweden Silver 6.0×6.9 ; Height 4.8
48	Bonbonnière in the Shape of a <i>Kemari</i> ("Kickball") Ball 4.4×4.9 ; Height 4.4; Total Height 7.5	58	Bonbonnière in the Shape of an Incense Burner with Handle Distributed on December 20, 1924, on the occasion of a luncheon for the American ambassador Silver Diameter 5.4; Height 6.4	68	Gourd-shaped Bonbonnière Diameter 3.4; Height 5.6	79	Bonbonnière in the Shape of a Folded Paper Helmet Silver 3.1×7.4 ; Height 5.0
49	Bonbonnière in the Shape of a <i>Sugoroku</i> (Japanese Parcheesi) Board Silver 4.9×3.2 ; Height 3.0	59	Pail-Shaped Bonbonnière Silver Diameter (opening) 2.7; Height 9.0	69	Bonbonnière in the Shape of a Rabbit Ornament With family crest of the former princely house of Asaka-no-miya Silver 6.8×4.8 ; Height 6.5	80	Bonbonnière in the Shape of a Sword Guard Silver 5.8×4.8 ; Height 1.5

16-1	20-3	25	31
Round Bonbonnière with Design of Mandarin Ducks Distributed on April 13, 1959, on the occasion of a celebratory banquet commemorating the marriage of the Crown Prince (HIM the Emperor) Silver Diameter 5.8; Height 2.2	Flower-shaped Bonbonnière with Water Lily Design Distributed in December 1973, on the occasion of the <i>chakko no gi</i> (donning-of-the- <i>hakama</i> ceremony) of Princess Sayako (HIH Princess Nori) Silver Diameter 5.7; Height 2.15	Round Bonbonnière with Phoenix Design With family crest of the former princely house of Chichibu-no-miya Silver Diameter 6.1; Height 3.6	Bonbonnière in the Shape of a Book with Protective Cover Distributed on December 12, 1925, on the occasion of the naming of Princess Shigeko Silver 5.5 × 4.2; Height 2.2
16-2	21	26	32
Chrysanthemum-shaped Bonbonnière with Design of Two Cranes Distributed on April 3, 1959, on the occasion of a private banquet commemorating the marriage of the Crown Prince (HIM the Emperor) Silver Diameter 6.0; Height 2.5	Round Bonbonnière with Circular Design of Mandarin Ducks Distributed in 1991, on the occasion of the investiture ceremony of HIH the Crown Prince Silver Diameter 6.8; Height 2.65	Bonbonnière in the Shape of a Hand Drum with Design of Young Pines and Stars Distributed in 1928, on the occasion of a private banquet held in advance of the marriage of Prince and Princess Chichibu Silver 4.25 × 5.8	Bonbonnière in the Shape of a Plum Blossom Distributed on December 6, 1929, on the occasion of the <i>chakko no gi</i> (donning-of-the- <i>hakama</i> ceremony) of Princess Shigeko Silver Diameter 5.1; Height 2.7
17	22-1	27-1	33
Round Bonbonnière with Design of Cherry Blossom and the Japanese Character <i>Sakae</i> Distributed on April 10, 1984, on the occasion of the 25th (silver) anniversary of the marriage of the Crown Prince and Princess (HIM the Emperor and Empress) Silver Diameter 6.0; Height 3.5	Round Bonbonnière with Crane and Pine Design Distributed in 1993, on the occasion of the marriage of HIH the Crown Prince Silver Diameter 5.8; Height 2.3	Box-shaped Bonbonnière with Design of Scattered Plum Blossoms Distributed on January 13, 1925, on the occasion of the coming-of-age ceremony of Prince Takamatsu Silver 5.2 × 3.9; Height 2.0	Scroll-shaped Bonbonnière Distributed on October 6, 1929, on the occasion of the naming of Princess Kazuko Silver Diameter 2.6; Height 7.7
18-1	22-2	27-2	34
Round Bonbonnière with Phoenix Design Distributed in November 1990, in commemoration of the enthronement of HIM the Emperor Silver Diameter 6.0; Height 3.4	Round Bonbonnière with Mandarin Duck Design Distributed in 1993, on the occasion of the marriage of HIH the Crown Prince Silver Diameter 5.8; Height 2.4	Round Bonbonnière with Design of Scattered Plum Blossoms Distributed on January 13, 1925, on the occasion of the coming-of-age ceremony of Prince Takamatsu Silver Diameter 6.4; Height 2.6	Chrysanthemum-Shaped Bonbonnière Distributed on the occasion of the <i>chakko no gi</i> (donning-of-the- <i>hakama</i> ceremony) of Princess Kazuko Silver Diameter 6.0; Height 2.8
18-2	23	28	35
Round Bonbonnière with Design of Flowering Branches Distributed on December 3, 1990, on the occasion of a tea party at the Kyōto Imperial Palace Brass, silver plating Diameter 6.0; Height 4	Round Bonbonnière with Design of Japanese Hemlock, Cypress, Fan, and Iris Distributed in 1990, on the occasion of the marriage of Prince Fumihiro (HIH Prince Akishino) Silver Diameter 5.7; Height 3.3	Suhama (Sandbar)-Shaped Bonbonnière with Pine and Wave Design Distributed in 1930, on the occasion of the marriage of Prince Takamatsu Silver 3.95 × 6.2; Height 1.8	Box-shaped Bonbonnière with Design of a Bow and Scroll Distributed on March 19, 1931, on the occasion of a private banquet held in commemoration of the naming of Princess Atsuko Silver 5.5 × 4.55; Height 1.5
19	24-1	29	36
Round Bonbonnière with Chrysanthemum Leaf Designs Distributed in November 1999, to commemorate ten years of HIM the Emperor's reign Silver Diameter 6.0; Height 3.5	Box-shaped Bonbonnière with Design of Two Cranes and Clouds Distributed on December 5, 1922, on the occasion of the coming-of-age ceremony of Prince Yasuhito (Prince Chichibu) Silver 6.3 × 4.45; Height 3.1	Box-Shaped Bonbonnière with Rounded Corners, with Design of Shrine Gateway and Japanese Cedar Distributed on December 3, 1935, on the occasion of the coming-of-age ceremony of HIH Prince Mikasa Silver 5.6 × 4.6; Height 1.9	Bonbonnière in the Shape of a Toy Drum Distributed on December 5, 1935, on the occasion of a private banquet celebrating the birth of Prince Masahito (HIH Prince Hitachi) Silver Diameter 4.6; Total length 9.9
20-1	24-2	30-1	37
Bonbonnière in the Shape of a <i>Go</i> Board Distributed in 1964, on the occasion of the <i>chakko no gi</i> (donning-of-the- <i>hakama</i> ceremony) of Prince Naruhito (HIH the Crown Prince) Silver 4.35 × 5.0; Height 3.0	Box-shaped Bonbonnière with Pine and Scroll Design (Small) Distributed in June 1922, on the occasion of a private banquet commemorating the coming-of-age ceremony of Prince Yasuhito (Prince Chichibu); with the family crest of the former princely house of Chichibu-no-miya Silver 5.15 × 3.95; Height 1.9	Bonbonnière in the Shape of an Eight-Petaled Flower with Paulownia Design Distributed on November 2, 1941, on the occasion of a dinner to announce the marriage of HIH Prince Mikasa Aluminum Diameter 5.9; Height 2.0	Bonbonnière in the Shape of a Wicker Box Distributed on April 1908, on the occasion of a marriage in the princely house of Takeda-no-miya Silver 5.1 × 5.15; Height 2.6
20-2	24-3	30-2	38
Fan-shaped Bonbonnière with Japanese Hemlock Design Distributed on October 18, 1970, on the occasion of the <i>chakko no gi</i> (donning-of-the- <i>hakama</i> ceremony) of Prince Fumihiro (HIH Prince Akishino) Silver 5.7 × 6.4; Height 1.4	Box-shaped Bonbonnière with Pine and Scroll Design (Large) Distributed in June 1922, on the occasion of a private banquet commemorating the coming-of-age ceremony of Prince Yasuhito (Prince Chichibu), with the family crest of the former princely house of Chichibu-no-miya Silver 5.65 × 4.25; Height 2.2	Fan-Shaped Bonbonnière with Design of Young Japanese Cedar and Paulownia Distributed on December 7, 1941, on the occasion of a dinner commemorating the marriage of HIH Prince Mikasa Ceramic, overglaze enamels with silver designs 6.8 × 9.4; Height 3.0	Bonbonnière in the Shape of a Charcoal Container Silver 6.2 × 4.7; Height 5.6
39			
			Bonbonnière in the Shape of a Hexagonal <i>Hibachi</i> (Brazier) Silver 5.2 × 5.8; Height 3.65

Collections

Data are given in the following order: item number, bonbonnière name, background information, medium, dimensions in centimeters.

1-1

oval Bonbonnière with Crane and Turtle Design

Distributed in 1894, on the occasion of the 25th anniversary celebration of the marriage of Emperor Meiji

Silver

5.7 × 4.6; Height 1.6

1-2

Round Bonbonnière with Crane and Turtle Design

Distributed in 1894, on the occasion of the 25th anniversary celebration of the marriage of Emperor Meiji

Silver

Diameter 5.2; Height 1.8

2-1

Basket-shaped Bonbonnière

Distributed in 1915, on the occasion of the grand banquet held on the second day of the enthronement ceremony of Emperor Taishō

Silver

Diameter 6.6; Height 2.9

2-2

Oak Leaf Box-shaped Bonbonnière

Distributed in 1915, on the occasion of the grand banquet held on the second day of the enthronement ceremony of Emperor Taishō

Silver

6.1 × 6.05; Height 2.9

2-3

Bonbonnière in the Shape of a Eight-Lobed Mirror Box, with Phoenix Design

Distributed in 1915, on the occasion of the enthronement ceremony of Emperor Taishō

Silver

Diameter 6.4; Height 2.5

3-1

Bonbonnière with Two Cranes

Distributed on June 30, 1925, on the occasion of the 25th anniversary celebration of the marriage of Emperor Taishō

Silver

Base 5.5 × 6.3; Total height 8.4

3-2

Chrysanthemum-shaped Bonbonnière with Design of Two Phoenixes

Distributed on May 10, 1926, on the occasion of the 25th anniversary celebration of the marriage of Emperor Taishō

Silver

Diameter 5.9; Height 3.1

4

Bonbonnière in the Shape of a Six-Petaled Flower, with Mandarin Duck Design

Distributed on November 29, 1916, on the occasion of the investiture ceremony of the Crown Prince (Emperor Shōwa)

Silver

6.0 × 6.4; Height 2.2

5-1

Bonbonnière in the Shape of an Eight-Lobed Mirror, with Design of Two Cranes

Distributed on May 10, 1919, on the occasion of the coming-of-age ceremony of the Crown Prince (Emperor Shōwa)

Silver

6.3 × 6.2; Height 2.5

5-2

Round Bonbonnière with Cranes Carrying Pine Branches in Beaks

Distributed on May 13, 1919, on the occasion of the coming-of-age ceremony of the Crown Prince (Emperor Shōwa) (luncheons held at the Kasumigaseki Detached Palace through May 14)

Silver

Diameter 5.2; Height 2.0

6-1

Box-shaped Bonbonnière with Wave Design

Distributed on September 15, 1921, on the occasion of a luncheon commemorating the return to Japan by the Crown Prince (Emperor Shōwa)

Silver

5.5 × 4.25; Height 2.3

6-2

Box-shaped Bonbonnière with Wave Design

Distributed on September 15, 1921, on the occasion of a luncheon commemorating the return to Japan by the Crown Prince (Emperor Shōwa)

Silver

5.52 × 3.9; Height 1.95

7-1

Hexagonal Bonbonnière with Flying Crane and Pine Design

Distributed on May 31, 1924, on the occasion of the marriage of the Crown Prince (Emperor Shōwa)

Wood (red sandalwood)

4.6 × 5.3; Height 3.0

7-2

Egg-shaped Bonbonnière with Tortoise-Shell Design

Distributed on June 7, 1924, on the occasion of the marriage of the Crown Prince (Emperor Shōwa)

Silver

4.8 × 6.2; Height 4.0

8-1

Bonbonnière in the Shape of a Large *Gagaku* (Imperial Court Music) Drum

Distributed on November 17, 1928, on the occasion of the grand banquet held on the second day of the enthronement ceremony of Emperor Shōwa

Silver

4.45 × 4.4; Height 11.1

8-2

Bonbonnière in the Shape of a Hanging Lantern

Distributed on November 17, 1928, on the occasion of the dinner held on the second day of the enthronement ceremony of Emperor Shōwa

Silver

5.4 × 5.4; Height 4.7

8-3

Bonbonnière in the Shape of a Halberd and Banner

Distributed in 1928, on the occasion of the enthronement ceremony of Emperor Shōwa

Silver

3.2 × 3.2; Height 17.3

9-1

Bonbonnière in the Shape of Stacked Boxes with Crane and Pine Design

Distributed on January 26, 1949, on the occasion of a banquet celebrating the 25th (silver) wedding anniversary of Emperor Shōwa

Silver

4.9 × 4.3; Height 4.2

9-2

Bonbonnière in the Shape of Stacks of *Tanzaku* (Paper Strips for Writing Poetry) with Morning Glory and Pine Branch Design

Distributed on January 26, 1949, on the occasion of a banquet celebrating the 25th (silver) wedding anniversary of Emperor Shōwa

Silver

8.5 × 3.3; Height 1.3

10

Round Bonbonnière with Bamboo and Plum Design

Distributed on January 26, 1974, on the occasion of a private banquet celebrating the golden wedding anniversary of Emperor Shōwa

Silver

Diameter 5.4; Height 3.2

11-1

Round Bonbonnière with Bamboo Design

Distributed in March 1971, in celebration of the seventieth birthday of Emperor Shōwa

Silver

Diameter 6.0; Height 3.4

11-2

Round Bonbonnière with Peach Blossom Design

Distributed on March 9, 1973, on the occasion of a private banquet celebrating the seventieth birthday of Empress Nagako (HIM the Empress Dowager)

Silver

Diameter 6.0; Height 2.2

11-3

Round Bonbonnière with Bamboo and Pigeon Design

Distributed in 1981, in celebration of the eightieth birthday of Emperor Shōwa

Silver

Diameter 6.0; Height 3.2

11-4

Round Bonbonnière with Peach Blossom Design

Distributed on March 6, 1983, in celebration of the eightieth birthday of Empress Nagako (HIM the Empress Dowager)

Silver

Diameter 6.0; Height 3.2

12-1

Round Bonbonnière with Design of Map of Western Europe

Distributed in 1971, in commemoration of a visit to Europe by Emperor Shōwa and Empress Nagako (HIM the Empress Dowager)

Silver

Diameter 6.0; Height 4.7

12-2

Round Bonbonnière with Design of Map of North America

Distributed in 1975, in commemoration of a visit to the United States by Emperor Shōwa and Empress Nagako (HIM the Empress Dowager)

Silver

Diameter 5.5; Height 3.2

13-1

Round Bonbonnière with Imperial Crest

Distributed in November 1976, in commemoration of the fiftieth year of the reign of Emperor Shōwa

Silver

Diameter 6.0; Height 3.3

13-2

Round Bonbonnière with Imperial Crest

Distributed in 1976, in commemoration of the fiftieth year of the reign of Emperor Shōwa

Brass, silver plating

Diameter 6.0; Height 3.3

13-3

Round Bonbonnière with Chrysanthemum Design

Distributed in 1986, in commemoration of the sixtieth year of the reign of Emperor Shōwa

Silver

Diameter 6.0; Height 3.4

14

Bonbonnière in the Shape of a Papier-Mâché Dog

Distributed in 1933, on the occasion of a banquet celebrating the birth of HIM the Emperor

Emperor

Silver

3.0 × 5.4; Height 5.0

15-1, 2

Round Bonbonnières with Mandarin Duck Design

Distributed on November 11, 1952, on the occasion of the invitational luncheon for the members of the Kikuei Friendship Club to commemorate the investiture ceremony of the Crown Prince (HIM the Emperor)

Silver

Diameter 4.7; Height 2.8

Celebratory Miniature Boxes: The Decorative Beauty of the Bonbonnière

Museum of the Imperial Collections, Sannomaru Shōzōkan

Foreword

Bonbonnière is the French word for a small container for bonbons. In Europe, bonbons are sometimes presented at celebrations like the birth of a child or a wedding, as small gifts that will enhance the joyousness of the event. The Japanese Imperial Family, too, has come to follow this custom in the modern era, using small containers filled with candy as gifts on such occasions.

These bonbonnières seem to have first come into use around the time of the banquet celebrating the twenty-fifth wedding anniversary of Emperor Meiji in 1894. Thereafter, bonbonnières of various elaborate designs have been produced for auspicious occasions such as the enthronement of the Emperor, the investiture of the Crown Prince, the birth of a child in the Imperial Family, the child's donning-of-the-*hakama* ceremony, the coming-of-age ceremony, and marriage. They have been made as well as for banquets commemorating such events as members of the Imperial Family embarking on overseas visits. While most of the bonbonnières are made of silver, some have additionally used cloisonné, while still others are made of lacquer on wood, ceramics, or bamboo.

This exhibition introduces approximately 150 bonbonnières redolent with both charm and beauty. Selected have been works dating mostly from before or during the early Shōwa era, presenting an especially wide variety of designs and techniques. Bonbonnières are being given as accompaniment to celebratory occasions in the Imperial Family even today, and by examining their changes over time and their designs, this exhibition seeks to introduce one aspect of the arts and crafts surrounding Imperial celebrations. We hope that the viewer will take this opportunity to enjoy the aesthetic beauty of the bonbonnière.